PL5 ユーザーマニュアル

リリース **v1.0.0**

2026-06-27

目次

1 システム設定 **4**
1.1 デフォルトパラメータとデバイス情報 4
1.2 ヒントとフィードバック 5
1.3 電源と動作モード 10
1.4 共通コントロール 10

2 トリガー設定 **12**
2.1 トリガーモード 12
2.2 継続的なコード読み取りとタイムアウト 13
2.3 低消費電力と停止条件 17

3 イメージングパラメータ **19**
3.1 画像とビデオ 19
3.2 照明と照準 25
3.3 露出と明るさ 28
3.4 画像の補正とトリミング 32

4 データ編集 **37**
4.1 デコードデータ形式 37
4.2 接頭辞と接尾辞 39
4.3 目標 Code ID および FN1 42
4.4 文字とデータの処理 43

5 USB とキーボードの設定 **43**
5.1 USB ホストインターフェイス 43
5.2 USB キーボード出力 47
5.3 キーボードのレイアウトと文字セット 50
5.4 キーボードの動作 53

6 シリアルと SSI の設定 **56**
6.1 SSI ホストパラメータ 56
6.2 SSI トランザクションとコマンドのカプセル化 65
6.3 RS232 ホストタイプ 67
6.4 シリアル通信パラメータ 68
6.5 その他のシリアルポート関連 72

7 バーコード設定 **72**
7.1 一般的な指示 72
7.2 すべてのエンコーディングを無効にする 72
7.3 UPC/EAN 72
7.4 Code 128 82
7.5 Code 39 85
7.6 Code 93 89
7.7 Code 11 90
7.8 Interleaved 2 of 5 (ITF) 91
7.9 Discrete 2 of 5 (DTF) 93
7.10 Codabar (NW-7) 94
7.11 MSI 96
7.12 Chinese 2 of 5 97

7.13 Matrix 2 of 5 98
7.14 Korean 3 of 5 100
7.15 反転カラー 1 次元コード 100
7.16 郵便番号 101
7.17 GS1 DataBar 105
7.18 複合複合コード 107
7.19 QR コード 108
7.20 冗長性レベル 113
7.21 セキュリティレベル 114
7.22 文字ギャップサイズ 114
7.23 マクロ PDF の機能 115

8 付録とセットアップコード **116**
8.1 パラメータデフォルトテーブル 116
8.2 コマンドとイベントテーブル 118
8.3 接尾辞、接尾辞および文字値の表 121
8.4 参考設定コード 123

1 システム設定

1.1 デフォルトパラメータとデバイス情報

共通システム設定コード

このセクションでは、デフォルト値の復元、バージョンクエリ、プロンプトサウンドなどの一般的な設定コードについて説明します。

デフォルト設定を復元する

工場出荷時のデフォルトに戻す

カスタムのデフォルト値を書き込む

ファームウェアバージョンの読み取り

デコーダの製造情報を読み取る

スキャンエンジンの製造情報を読み取る

デフォルトのパラメータを復元する

モジュールの一般パラメータのデフォルト設定を復元するために使用されます。このパラメータのセットは、工場出荷時のデフォルト値とカスタムのデフォルト値という 2 つのリカバリパスのセットをカバーします。

利用可能なオプションは次のとおりです。

- Restore Defaults はデフォルト設定を復元します。Write to Custom Defaults が以前に実行されている場合は、カスタマイズされたデフォルト値が復元されます。それ以外の場合は、工場出荷時のデフォルト値が復元されます。
- Set Factory Defaults は、付録デフォルト表の工場出荷時のデフォルト値を復元し、書き込まれたカスタムデフォルト値を削除します。
- Write to Custom Defaults は、現在のデバイス構成をカスタムのデフォルト値として書き込み、後で Restore Defaults を介して復元できます。

バージョン情報の読み取り

現在のファームウェア、デコーダ、スキャンエンジンのバージョン情報を照会するために使用されます。使用可能なクエリ用語は次のとおりです。

- Report Version
- Report Decoder Manufacturing Version
- Report Scan Engine Manufacturing Version

特定の戻りコード形式は、後でこのセクションまたは付録に追加できます。

1.2 ヒントとフィードバック

LED 動作のデコード

シリアルポートホストシナリオでデコードが成功した後、LED と低消費電力モードの間のリンク方法を制御するために使用されます。現在確認されているオプションは以下の通りです。

- Power Down After LED Shuts Off は LED をデコードし、デバイスが低電力モードに入ることができるまで約 1.5 秒間点灯したままになります。
- Decode LED Off on Power-Down デコード LED は、デバイスが低電力モードに入るまでオンのままです。これにより、デコードインジケータライトを維持しながら、より迅速に低電力状態に移行できるようになります。
- Disable Decode LED は、LED のデコードを完全にオフにします。

* LED がオフになり、低消費電力状態になります。

低電力 LED に入るときにデコードをオフにする

デコードを無効にする LED

デコードフラッシュ

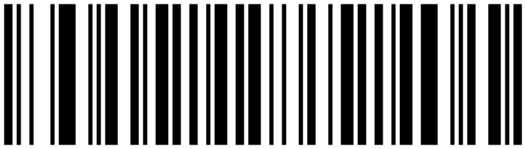
デモンストレーションモードでデコードが成功した後のフラッシュの数と継続時間を設定するために使用されます。

- Disable Decode Blinks
- 1 Decode Blink
- 2 Decode Blinks
- 3 Decode Blinks

* デコードフラッシュを無効にする

1 回点滅

2 回点滅



3 回点滅

- Set Decode Blink Duration to Timeout Between Decodes, Different Symbols デコードフラッシュ期間を「異なるコードの繰り返しデコード間隔」と一致するように設定します。

＊デコードフラッシュの継続時間は、「異なるコードの繰り返しデコード間隔」に従います。

> **注釈**
>
> 元の説明: デモンストレーションモードで点滅のデコードを有効にした後、2 桁のバーコードをスキャンし、点滅時間を 100 ms 単位で設定する必要もあります。設定可能な範囲は 00 ～99 で、最大 9.9 秒です。

ブザー音

デコードが成功した後のビープ音の周波数を設定するために使用されます。現在確認されているオプションは以下の通りです。

- Low Frequency
- Medium Frequency、デフォルト値
- High Frequency

低周波

* もし

高周波

ブザー音量

ブザーの音量を設定します。現在確認されているオプションは以下の通りです。

- Low Volume
- Medium Volume
- High Volume、デフォルト値

小さい音量

中程度の音量

* 大音量

画像コレクションのお知らせ

写真、スナップショット、または画像収集を撮影する際のプロンプトフィードバックを制御するために使用されます。このセクションは、このセクションの後半でブザー、LED、またはホストイベントリンケージルールを追加するのに適しています。

LED をブザー信号でデコード

このセクションでは、ブザーが LED とリンクされている場合のフィードバック定義について説明します。これは、プロンプトフィードバック関連の設定の概要として使用できます。

ブザー持続時間

ビープ音の長さを設定するために使用されます。現在確認されているオプションは以下の通りです。

- Short
- Medium、デフォルト値
- Long

短い鳴き声

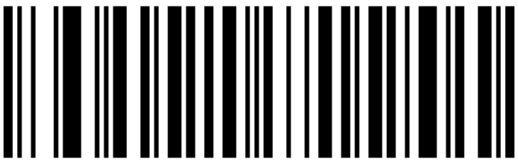
* 中程度の持続時間

長い叫び声

電源投入時のビープ音を抑制する

ソースページ: ページ 97 Suppress Power-up Beeps

- Do Not Suppress Power-up Beeps、デフォルト値
- Suppress Power-up Beeps



* 電源投入時のビープ音を抑制しないでください

電源投入時のビープ音を抑制する

1.3 電源と動作モード

このセクションには、システム設定ディメンションの電力関連のエントリが保持されます。トリガ、低電力エントリのタイミング、および停止条件に直接関連する設定コードは、トリガー設定 で均一に維持され、複数のページで同じ設定コードが繰り返し維持されることを回避します。

関連する設定場所:

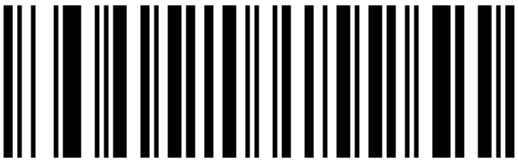
- 触发方式选择: Presentation Mode、Host、Auto Aim、およびその他のトリガー動作モードが含まれます。
- 低功耗模式开关: Continuous On および Low Power Mode が含まれます。
- 低功耗延时 および低功耗延时取值表: 低消費電力に入る前のメンテナンス待ち時間。
- Picklist 模式: 照準中心エリアの読み取り制限を維持します。
- 成像参数 および移动屏幕显示模式: 画像、スナップショット、ビデオキャプチャ、および画面コードの読み取りに関連する作業モードを維持します。

1.4 共通コントロール

パラメータバーコードの検証

シリアルスキャン時のパラメータ設定コード配列を確認し、設定コードの入力ミスを軽減するために使用します。

- Disable、デフォルト値
- Enable



* パラメータのバーコード検証を無効にする

パラメータバーコード検証を有効にする

パラメータスイープ

ソースページ: ページ 90 Parameter Scanning

- Enable Parameter Scanning、デフォルト値
- Disable Parameter Scanning

* パラメータスキャンを有効にする

パラメータスキャンを無効にする

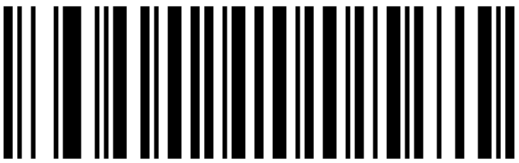
ロックパラメータスキャン

ソースページ: ページ 91-92 Lock/Unlock Parameter Scanning

デバイスがパラメータバーコードを読み取り続けることを制限し、追加のセキュリティ制御を提供するために使用されます。

元の説明:

- ロック後は、Unlock 以外のパラメータバーコードは有効になりません。
- ロックを有効にする前に、Parameter Scanning を許可する必要があります。
- ロックとロック解除の両方で、追加の 4 桁の PIN をスキャンする必要があります。
- 1-9999 範囲の PIN 値は、SSI/SNAPI を通じて直接書き込むこともできます。



ロックパラメータスキャン

パラメータスキャンのロックを解除する

セットアップ手順を無視する

「設定コードを無視する」または「設定入力をロックする」に関連するオプションを受け入れるために使用されます。

ビープ音コマンドを無視する

「サイレント設定プロセス」または「ビープフィードバックを無効にする」関連オプションを実行するために使用されます。

デコード成功後のビープ音

ソースページ: ページ 94 Beep After Good Decode

- Beep After Good Decode、デフォルト値
- Do Not Beep After Good Decode

* デコードが成功するとビープ音が鳴ります

デコード成功後にビープ音が鳴らない

> **注釈**
>
> 「デコード成功後のビープ音」をオフにしても、パラメータメニューのスキャン音やエラー音は残ります。

2 トリガー設定

2.1 トリガーモード

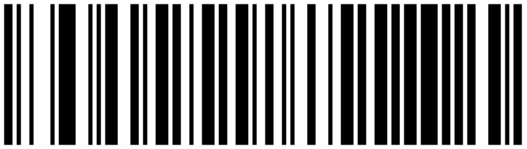
トリガーモード選択/Trigger Mode

デバイスがデコードを開始するためのトリガー方法を選択するために使用されます。現在、原文から次のオプションが確認されています。

- Level トリガーイベントの開始後、トリ ガーが終了するか、デコードが成功するか、または「デコードセッションタイムアウト」に達するまで、デコードプロセスに入ります。
- Presentation Mode デバイスが視野内にターゲットを検出すると、自動的にトリガーされ、デコードが試行されます。このモードはデコードモードでのみ使用でき、ターゲット検出範囲は通常の照明条件下で固定されます。このモードでは、デバイスは低電力モードに入りません。

- `Host` は、ホストコマンドによって送信されるトリガー信号です。実際の物理トリガーは依然として `Level` 方法で解釈されます。
- `Auto Aim` は、動きが検出されると照準パターンをオンにし、トリガーを引いた後にデコードを開始します。2 秒間操作がない場合、照準パターンは自動的にオフになります。
- `Auto Aim with Illumination` が動きを検出すると、照準パターンと内部照明 LED が同時にオンになります。トリガーを引いた後にデコードが開始されます。2 秒間アクティビティがない場合、照準パターンと照明 LED は自動的にオフになります。

Level



Presentation Mode

Host

Auto Aim

Auto Aim with Illumination

2.2 継続的なコード読み取りとタイムアウト

連続コード読み取り

デバイスがトリガー後にバーコードの読み取りを試行し続けるかどうかを制御するために使用されます。

- `Disable`、デフォルト値

- Enable

* 連続コード読み取りを無効にする

連続コード読み取りを有効にする

独自のバーコードレポート

連続コード読み取り中に繰り返されるコンテンツのレポート戦略を制御するために使用されます。

- Disable、デフォルト値
- Enable

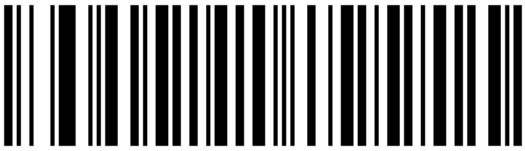
* 固有のバーコードレポートを無効にする

固有のバーコードレポートを有効にする

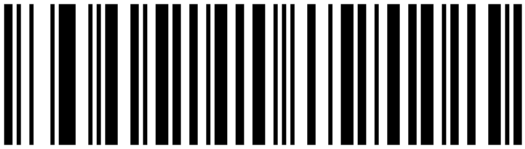
低照度のモーション検出

暗い環境で動き検出戦略を調整するために使用されます。

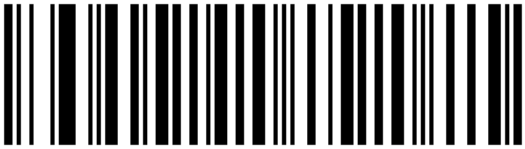
- No Low Light Motion Detection、デフォルト値
- Low Light Motion Detection 1
- Low Light Motion Detection 2



* 低照度の動き検出を無効にする



低照度動作検出レベル 1



低照度動作検出レベル 2

デモモードビュー

デモンストレーションモードでターゲット検出の視野を調整するために使用します。デフォルト値は `Medium Field of View` です。対応する設定コードが抽出されています。視野タイプの名前は、その後の校正のために元のテキストに従うものとします。

デモモードの視野オプション 00h

デモモードの視野オプション 01h

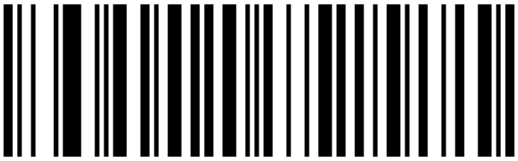
デモモードの視野オプション 02h

PDF 優先タイムアウト

PDF Prioritization が有効になった後、視野内の 1 次元コードを報告する前に、デバイスが最初に PDF417 の読み取りを試行するまでの待ち時間を設定するために使用されます。

- 値の範囲: 0 〜5000 ms
- デフォルト値: 200 ms
- 設定方法: 最初に以下の設定コードをスキャンし、次に 4 桁のバーコードをスキャンしてミリ秒値を入力します

たとえば、400 ms に設定されている場合、設定コードをスキャンして、0400 を入力する必要があります。



PDF 優先タイムアウトを設定する

同一符号繰り返し復号間隔

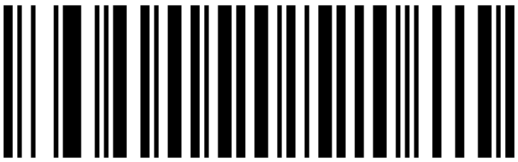
同じバーコードが短時間に繰り返し出力されることを制限するために使用されます。デフォルトのパラメータ表によると、デフォルト値は 0.6 秒です。現在のところ、数値バーコードと組み合わせて特定の間隔値を入力するのに適した独立した設定コードがあることが確認されています。

同一コード繰り返しデコード間隔を設定する

異なるコードの繰り返しデコード間隔

異なるバーコードを連続して読み取る場合の最小間隔を制限するために使用されます。デフォルトのパラメータ表によると、デフォルト値は 0.2 秒です。

- 値の範囲: 0.1 〜9.9 秒
- 入力方法: 下記の設定コードを読み取った後、2 桁のバーコードを読み取ってください



異なるコードの繰り返しデコード間隔を設定する

2.3 低消費電力と停止条件

低電力遅延

このパラメータは、デコードが完了した後、デバイスがアクティブな状態を維持する時間を設定するために使用されます。スキャンセッションが終了すると、デバイスは設定された時間待機してから低電力モードに移行します。

> **注釈**
>
> 元の説明: このパラメータは、Power Mode が低消費電力モードに設定されている場合にのみ有効です。

低消費電力遅延値テーブル

原文より以下の値が確認されています。

- 1 Second
- 5 Seconds
- 1 Minute
- 5 Minutes
- 15 Minutes
- 1 Hour

1 秒

5 秒

1 分

5 分

15 分

1 時間

上記以外の値に設定する必要がある場合、原文では SSI インターフェイスの「SSI で低電力モードへの時間遅延を使用する」メソッドを介してプログラミングする必要があります。

低電力モードスイッチ

ソースページ: ページ 102 Power Mode (Serial Hosts Only)

- Continuous On は、デコード試行後に低電力状態になりません。
- Low Power Mode「低電力遅延」パラメータを押して、デコード試行後に低電力モードに入ります。

Continuous On

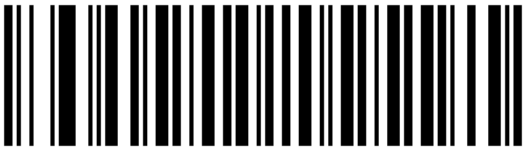
Low Power Mode

ピックリストモード

ターゲットパターンの中央領域の下にあるバーコードのみをデコードするようにデバイスを制限するために使用されます。

- Disabled Always、デフォルト値

- Enabled Always



* 選択リストを常に無効にする

選択リストを常に有効にする

デコードセッションのタイムアウト

単一のデコード試行の最大期間を 0.5 秒から 9.9 秒の範囲で、0.1 秒単位で設定するために使用されます。

デコードセッションのタイムアウトを設定する

ホストのシリアルポート応答タイムアウト

> **参考**
>
> このパラメータはシリアルポートおよび SSI 通信パラメータに属します。シリアルポートホストモードを直接使用する場合、完全な値と通信手順は、完全な PL5 モジュールマニュアルで確認する必要があります。

ホストキャラクターのタイムアウト

> **参考**
>
> このパラメータはシリアルポートおよび SSI 通信パラメータに属します。シリアルポートホストモードを直接使用する場合、完全な値と通信手順は、完全な PL5 モジュールマニュアルで確認する必要があります。

3 イメージングパラメータ

3.1 画像とビデオ

イメージャの設定

このセクションは、デコード、画像キャプチャ、ビデオビューファインダー、および画質に関連するイメージャパラメータの一般的なエントリポイントとして機能します。

作業モード

イメージャの動作モード、取得モード、または画像出力モードに関連するパラメータを受け入れるために使用されます。

モバイル画面表示モード

携帯電話の画面や電子画面などの表示メディアに直面した場合の読み取り互換性を向上させるために使用されます。

- Disable、デフォルト値
- Enable

* 電話画面モードを無効にする

電話画面モードを有効にする

ビデオ解像度

行と列を削除してビデオデータサイズを小さくする代わりに、ビデオ送信前に解像度を下げるために使用されます。

オプション	価値	ビデオサイズ
Full Resolution	00h	752 x 480
1/2 Resolution	01h	376 x 240
1/4 Resolution	03h	188 x 120、デフォルト値

フル解像度

1/2 解像度

* 1/4 解像度

フレームレート

画像取得およびビデオ送信中のフレームレートを制御するために使用されます。多くの場合、フレームレートを低くすると画像が明るくなります。

現在、原文から次のオプションが確認されています。

- Auto、デフォルト値
- 60 fps
- 55 fps
- 50 fps
- 45 fps
- 40 fps
- 30 fps
- 20 fps
- 15 fps
- 10 fps

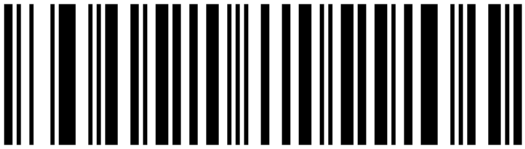
* 自動フレームレート

60 fps

55 fps

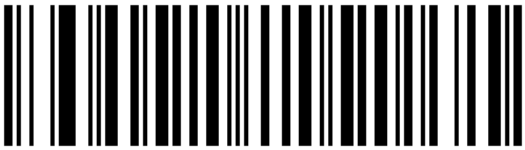
50 fps

45 fps

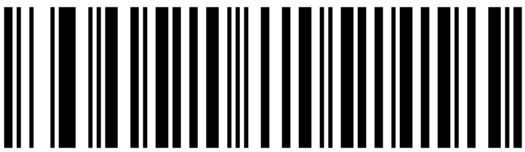


40 fps

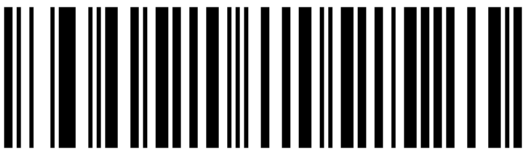
30 fps



20 fps



15 fps



10 fps

注釈

フレームレートが 30 fps 以下の場合、照準パターンがちらつくように見える場合があります。

画像ファイルサイズセレクター

3 桁の値を入力して最大 JPEG ファイルサイズを制御する JPEG Size Selector での使用が確認されています。

BMP ファイル形式

*JPEG ファイル形式

TIFF ファイル形式

画像ファイルのメタデータ

JPEG イメージに EXIF 2.2 メタデータが伴うかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Image File Meta Data
- Disable Image File Meta Data、デフォルト値

有効にすると、次のフィールドに書き込むことができます。

- 電源投入後の時間
- センサーの種類
- デバイス名
- メーカー
- フレームレート
- ホストの種類
- 電源投入後の画像番号
- 画像補正パラメータ

- 画像鮮明化パラメータ
- 画像コントラスト強調パラメータ

この設定は、TIFF および BMP 形式には無効です。

画像ファイルのメタデータを有効にする

* 画像ファイルのメタデータを無効にする

ビデオビューファインダー

ライブビデオビューファインダーをイメージモードで表示するかどうかを制御するために使用されます。

- Disable Video View Finder、デフォルト値
- Enable Video View Finder

* ビデオビューファインダーを無効にする

ビデオビューファインダーを有効にする

ビデオビューファインダーの画像サイズ

ビデオビューファインダーの画像サイズを設定するために使用され、入力単位は 100-byte block です。

- 値の範囲: 800 〜12,000 バイト
- デフォルト値: 1700 バイト

値が小さいほどフレームレートは高くなります。値が大きいほど高画質になります。

ビデオビューファインダーの画像サイズを設定する

ターゲットビデオフレームサイズ

1 秒あたりに送信されるビデオデータブロックサイズを設定するために使用されます。入力単位は 100-byte block です。

- 値の範囲: 800 ～20,000 バイト
- デフォルト値: 2200 バイト

値が小さいほどフレームレートは高くなります。値が大きいほど高画質になります。

ターゲットビデオフレームサイズを設定する

3.2 照明と照準

照明

このセクションでは、デコードおよびキャプチャのシナリオにおける照明制御項目について説明します。

LED 照明

LED 光源がどのように有効、無効、または動作するかを説明するために使用されます。後で別のパラメータページにアクセスする場合は、このセクションでスイッチ値と明るさの関係を追加できます。

画像取得照明

スナップショットの撮影時に照明を有効にするかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Image Capture Illumination、デフォルト値
- Disable Image Capture Illumination

* 画像取得照明を有効にする

画像取得照明を無効にする

通常、照明を有効にすると画像が向上しますが、ターゲットが遠ざかるほど補助光の効果は低くなります。

照明の明るさ

LED 電力を調整して照明の明るさを設定するために使用されます。

- 値の範囲: 1 ～10
- デフォルト値: 10
- 設定方法: 最初に以下の設定コードをスキャンし、次に 2 桁のバーコードをスキャンして明るさの値を入力します

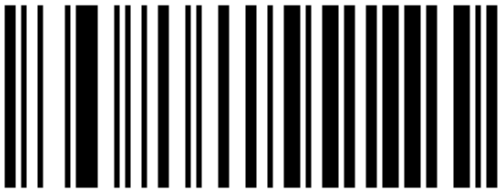
たとえば、明るさを 6 に設定する場合、最初に「照明の明るさ」設定コードをスキャンし、次に 0 と 6 を入力する必要があります。

照明の明るさを設定する

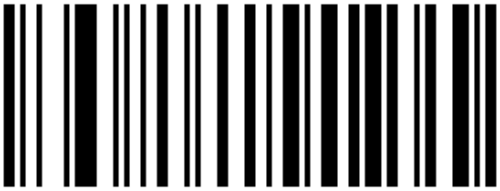
明るさを目指す

照準パターンの明るさを設定するために使用します。デフォルト値は 0 で、これは照準パターンが 2 つの露光間で点灯し続けることを意味します。値が 0`` 时，每增加 1，瞄准持续时间增加 0.5 ミリ秒より大きい場合。

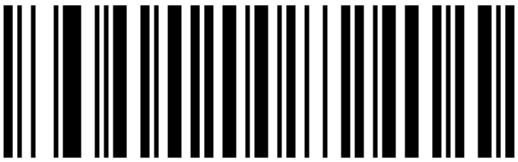
- 値の範囲: 0 ～255
- 推奨範囲: フレームレートが 60 fps の場合、0～30 の使用を推奨します
- 設定方法: まず対応する設定コードをスキャンし、次に 3 桁のバーコードを入力します



スナップショットモード



ビデオモード



照準の明るさを設定する

照準パターンをデコードする

デコード中に照準パターンを投影するかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Decode Aiming Pattern、デフォルト値
- Disable Decode Aiming Pattern

照準パターンのデコードを無効にする

* 照準パターンのデコードを有効にする

> **注釈**
>
> ピックリストモードが有効な場合、照準パターンの読み取りがオフになっていても照準パターンは点滅します。

スナップショット照準パターン

スナップショットモードで照準パターンを表示するかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Snapshot Aiming Pattern、デフォルト値
- Disable Snapshot Aiming Pattern

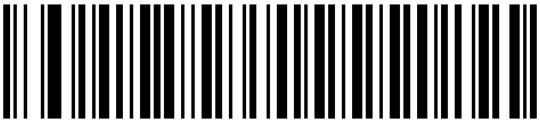
* スナップショット照準パターンを有効にする

スナップショット照準パターンを無効にする

スナップショットモードのタイムアウト

デバイスがスナップショットモードに留まる時間を設定するために使用されます。タイムアウトまたはトリガーイベントの後、デバイスはスナップショットモードを終了します。

- デフォルト値 0 は、30 秒を意味します
- その後 1 が増加するたびに、時間は 30 秒ずつ増加します。



スナップショットモードのタイムアウトを設定する

3.3 露出と明るさ

自動露出

デコードモードで自動露出と自動ゲインを有効にするかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Decoding Autoexposure、デフォルト値
- Disable Decoding Autoexposure

* デコード自動露出を有効にする

デコード自動露出を無効にする

オフにすると、ゲインと露光時間を手動で設定する必要があります。公式には、複雑な読書シナリオで上級ユーザーによる使用のみが推奨されています。

> **注釈**
>
> Presentation Mode でこのパラメーターを切り替えることはお勧めできません。

画像取得自動露出

スナップショットキャプチャモードで自動露出と自動ゲインを有効にするかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Image Capture Autoexposure、デフォルト値
- Disable Image Capture Autoexposure

* 画像取得の自動露出を有効にする

画像取得時の自動露出を無効にする

固定ゲイン

デコードまたは画像取得の自動露出がオフになった後、元の画像データを手動で拡大するために使用されます。ゲインを増加すると、明るさとコントラストが増加し、画像ノイズも増加する可能性があります。

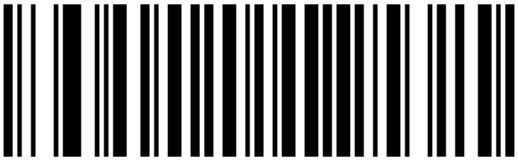
- デフォルト値: 50
- 値の範囲: 1 ～100
- 入力方法: 下記の設定コードを読み取った後、3 桁のバーコードを読み取ってください

固定ゲインを設定する

曝露時間

自動露出をオフにした後、露出時間を手動で指定するために使用します。デフォルト値は 100、つまり 10 ms です。このパラメータは、自動露出オフシーンでの使用により適しています。

- 各整数値は 100 us を表します
- デフォルト値: 100
- 値の範囲: 1 〜1000
- 入力方法: 下記の設定コードを読み取った後、4 桁のバーコードを読み取ってください



露出時間を設定する

画像の明るさの目標白色値

スナップショットモードおよびビデオモードで自動露出アルゴリズムによって使用されるターゲットの白色値を設定するために使用されます。

- デフォルト値: 180
- 入力方法: Image Brightness をスキャンし、3 桁の数字を入力します。

このドキュメントでは、白 を 10 進数の 240 として定義し、黒を 10 進数の 1 として定義しています。デフォルト値 180 は、画像を約 180 の白ビットにします。

ビット深度

画像をキャプチャするときの 1 ピクセルあたりの有効ビット数を設定するために使用されます。

- 1 BPP
- 4 BPP
- 8 BPP、デフォルト値

1 BPP

4 BPP

* 8 BPP

注釈

JPEG イメージは常に 8 BPP を使用し、このパラメーターの影響を受けません。

画像解像度

行と列を削除して画像データのサイズを小さくする代わりに、画像圧縮の前にキャプチャ解像度を下げるために使用されます。

オプション	価値	トリミングされていない画像サイズ
Full Resolution	00h	752 x 480
1/2 Resolution	01h	376 x 240
1/4 Resolution	03h	188 x 120

* フル解像度

1/2 解像度

1/4 解像度

3.4 画像の補正とトリミング

ファジィ一次元処理

わずかにぼやけていたり、エッジが不明瞭な一次元コードの読み取り能力を高めるために使用されます。

- Disable
- Enable、デフォルト値

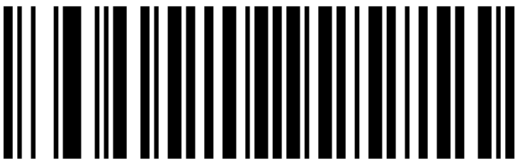
ブラー 1D 処理を無効にする

* ぼかした 1D 処理を有効にする

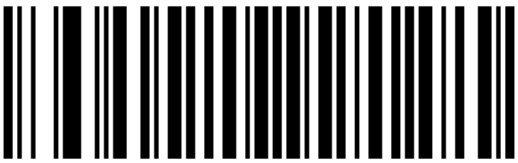
鏡像

出力イメージをミラーリングするかどうかを制御するために使用されます。

- Disable、デフォルト値
- Enable



* 画像ミラーリングを無効にする



画像ミラーリングを有効にする

画像補正

エッジの鮮明化とコントラストの強調を通じて、画像の外観と雰囲気を向上させるために使用されます。

- `Off (0)`
- `Low (1)`、デフォルト値
- `Medium (2)`
- `High (3)`
- `User (4)`

画像強調無効 (0)

* 画像補正低 (1)

画像補正 (2)

画像強調高 (3)

画像補正ユーザーカスタマイズ (4)

`User` を選択した後、「画像エッジシャープニング」と「画像コントラスト強調」を個別に設定する必要もあります。

画像のコントラストの強調

「イメージ強化」が User に設定されている場合にのみ有効です。

- Disable
- Enable、デフォルト値

画像のコントラスト強調を無効にする

* 画像のコントラスト強調を有効にする

画像の回転

出力画像の回転角度を制御するために使用されます。

- Rotate 0°、デフォルト値
- Rotate 90°
- Rotate 180°
- Rotate 270°

* 0° 回転

90° 回転

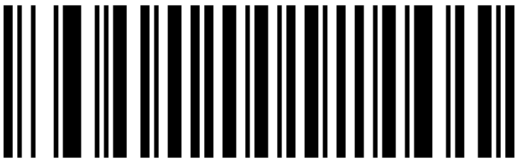
180° 回転

270° 回転

画像のエッジをシャープにする

「Image Enhancement」が `User` に設定されている場合にのみ有効になります。3 桁の数値を手動で入力することも、推奨値を直接使用することもできます。

- `Off (0)`
- `Low (30)`、デフォルト値
- `Medium (75)`
- `High (100)`



画像エッジシャープ設定コード

シャープニングが無効 (0)

* シャープロー (30)

研ぎ (75)

シャープハイ (100)

画像のトリミング

スクリーンショットをトリミングするかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Image Cropping
- Disable Image Cropping (デフォルト) は完全な 742 x 480 イメージを使用します

> **注釈**
>
> デバイスのクロップ解像度は 4 ピクセルです。トリミングサイズが 3 ピクセル未満に設定されている場合、実際には画像全体が転送されます。

画像のトリミングを有効にする

* 画像のトリミングを無効にする

ピクセルアドレスによるクロップ

画像のトリミングが有効な場合、トリミング領域をピクセル座標で設定できます。

- 列座標範囲: 0 ～751
- 行座標範囲: 0 ～479

たとえば、右下隅の 4 x 8 領域は次のように設定できます。

- Top = 476
- Bottom = 479
- Left = 744
- Right = 751

> **注釈**
>
> トリミングの最小粒度は 4 ピクセルで、4 の倍数以外は切り上げられます。

JPEG 画像オプション

JPEG イメージの品質を最適化するかサイズを最適化するかを選択できます。

- JPEG Quality Selector、デフォルト値
- JPEG Size Selector

JPEG 質量とサイズ

JPEG 質量値またはターゲットサイズ値を入力するには:

- JPEG Quality Value デフォルト値 065、範囲 5 ～100
- JPEG Size Value デフォルト値 160、範囲 5 ～350

ここで、JPEG Size Value は 1024 バイトの単位です。たとえば、008 は、最大約 8192 バイトを表します。

画像ファイル形式

スナップショットの保存形式を選択します。

- BMP File Format
- JPEG File Format、デフォルト値
- TIFF File Format

4 データ編集

4.1 デコードデータ形式

パケットフォーマットをデコードする

現在、SSI / SNAPI に関連するデータパケット透過伝送フォーマットの一種が確認されています。

デバイスは、ユーザー定義のパラメータバーコードを通常のデコードデータとしてホストに透過的に送信できます。

- ユーザー定義パラメータのバーコード形式:

```
<FNC3><L><data>
或
<FNC3><B><12 bytes of data>
```

- デコードされたデータ形式:

```
<0xf3><L><data>
或
<0xf3><B><12 bytes of data>
```

このうち、B タイプは、12 バイトデータのみをサポートします。ユーザー定義パラメータのバーコードを正常に読み取ると、デバイスは通常のデコードビープ音を鳴らします。

AIM コード識別子

出力データに AIM Code ID または Extended Code ID が含まれるかどうかを制御するために使用されます。

オプション:

- None、デフォルト値
- AIM Code ID Character
- Extended Code ID Character

* Code ID を出力しません

出力 AIM Code ID

出力拡張 Code ID

このオプションを有効にすると、「プレフィックス」と「デコードされたデータ」の間に Code ID が挿入されます。

> **注釈**
>
> Transmit "No Read" Message が同時に有効で、AIM Code ID Character または Extended Code ID Character が有効な場合、デバイスは NR メッセージの後に Code 39 のコード ID を追加します。

メッセージを読めません

デコードが失敗した場合に、NR をホストに送信するかどうかを制御するために使用されます。

- Enable No Read
- Disable No Read、デフォルト値

未読メッセージを有効にする

* 未読メッセージを無効にする

4.2 接頭辞と接尾辞

スキャンプレフィックス

Prefix/Suffix Values パラメータグループに属します。

設定方法:

1. 最初にターゲットアイテムをスキャンします: Scan Prefix、Scan Suffix 1、または Scan Suffix 2
2. 別の 4 桁の値を入力してください

で:

- ビット 1 はキーのタイプを定義し、Key Category と書き込みます。
- 最後の 3 ビットは文字値を定義します。Decimal Value と書き込みます。

スキャンプレフィックス

スキャンサフィックス 1

スキャンサフィックス 2

プレフィックス/サフィックス値テーブル

出力データに 1 つのプレフィックスと最大 2 つのサフィックスを追加するために使用されます。

バーコードメニューで設定する場合は 4 桁の数値を入力する必要があります。ホストコマンドを使用して設定する場合、ドキュメントでは、Key Category を 1 に設定し、その後 3 桁の 10 進数値を設定する必要があります。特定の 4 桁のコードについては、Table E-1 を参照してください。

> **注釈**
>
> プレフィックス/サフィックスをそのまま出力したい場合は、「出力データ転送フォーマット」も同時に設定する必要があります。

B4 プレフィックス/サフィックス値テーブル

B4 クラスのサフィックス値を処理するために使用されます。設定方法はユニバーサルプレフィックス/サフィックス値テーブルと一致しています。バーコードメニューから 4 桁の値を入力するか、ホストコマンドを通じて Key Category と 3 桁の 10 進値に分割します。

エンコードプレフィックスを無効にする

コード体系に応じて別途付加される排他プレフィックスを無効にする場合に使用します。この項目は「コードシステムプレフィックス」と組み合わせて使用 され、異なるコードシステムで区別されたプレフィックスが必要な場合に個別に設定をクリアするのに適しています。

コードプレフィックス

コード体系に応じて排他的なプレフィックスを個別に付加する場合に使用します。現在の情報では、完全な設定コードは提供されていません。「プレフィックス・サフィックス値テーブル」と併用し、数値設定コードによっても入力方法が異なります。

出力データ転送フォーマット

最終出力でプレフィックス、データ、サフィックスをどのように組み合わせるかを制御するために使用されます。

現在確認されている形式は次のとおりです。

- Data As Is、デフォルト値
- <DATA> <SUFFIX 1>
- <DATA> <SUFFIX 2>
- <DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>
- <PREFIX> <DATA>
- <PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1>
- <PREFIX> <DATA> <SUFFIX 2>
- <PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>

* 現状のままのデータ

<DATA> <SUFFIX 1>

<DATA> <SUFFIX 2>

<DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>

<PREFIX> <DATA>

<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1>

<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 2>

<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>

> **⚠ 警告**
>
> このパラメーターを使用してプレフィックスとサフィックスの出力を制御する場合は、ADF rules を使用してプレフィックスとサフィックスを同時に構成しないでください。

4.3 目標 Code ID および FN1

Code ID 文字を狙う

> **参考**
>
> このセクションでは主に「AIM Code ID を出力するかどうか」の制御ロジックを扱います。端末固有の Code ID 比較表については、「附录与设置码」を参照してください。

FN1 の置き換え

USB HID keyboard host にのみ適用されます。有効にすると、EAN-128 バーコードの FN1 (0x1b) をユーザーが設定した値に置き換えることができます。

デフォルトの置換値は 7013 で、これは Enter キーです。

ホストコマンドで設定する場合:

このドキュメントでは、最初に Key Category を 1 に設定し、次に 3 桁のキー値を設定する必要があります。

FN1 置換値テーブル

FN1 置換ターゲット値を設定するために使用されます。

バーコードメニューの設定手順:

1. Set FN1 Substitution Value をスキャン
2. 現在のホストインターフェイスに対応する ASCII 文字テーブルでターゲットボタンを見つけます。
3. 4 桁の ASCII 値をスキャンします。

FN1 置換値を設定します

間違えた場合は、Cancel をスキャンして再入力できます。

4.4 文字とデータの処理

不明な文字を無視する

不明な文字が検出された場合の送信ポリシーを制御するために使用されます。USB キーボードリンクの完全な設定は、完全な PL5 モジュールマニュアルの USB およびキーボード設定によって維持されます。

大文字と小文字の変換

出力データの大文字と小文字を均一に調整するために使用されます。USB キーボードリンクの完全な設定は、完全な PL5 モジュールマニュアルの USB およびキーボード設定によって維持されます。

不明な文字を含むデータを送信する

バーコードの内容に不明な文字が含まれている場合に、残りのデータの送信を継続するかどうかを制御するために使用されます。抽出された原文によると、

- `Send Bar Codes with Unknown Characters` 識別可能なデータの送信を継続し、不明な文字を無視します。エラービープ音は鳴りません。
- `Do Not Send Bar Codes with Unknown Characters` IBM デバイスは、バーコード全体が送信されるのを防ぎます。`HID Keyboard` デバイスは不明な文字まで送信し、エラービープ音を鳴らします。

> **参考**
>
> USB キーボードリンクの対応する設定コードとアイコンは、完全な PL5 モジュールマニュアルの USB とキーボード設定によって維持されます。

5 USB とキーボードの設定

5.1 USB ホストインターフェイス

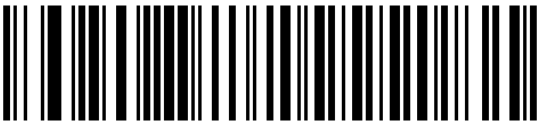
USB デバイスタイプ

デバイスがホストに対して列挙される USB タイプを選択するために使用されます。デバイスタイプ USB を切り替えると、デバイスは自動的にリセットされ、標準の電源投入ビープ音が鳴ります。

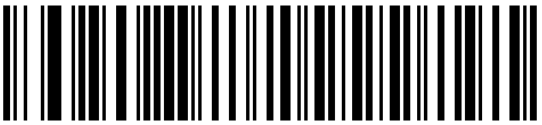
現在確認されているデバイスの種類は次のとおりです。

- `SNAPI with Imaging Interface`、デフォルト値
- `SNAPI without Imaging Interface`
- `HID Keyboard Emulation`
- `IBM Table Top USB`
- `IBM Hand-Held USB`
- `USB OPOS Hand-Held`
- `Simple COM Port Emulation`
- `USB CDC Host`

・SSI over USB CDC

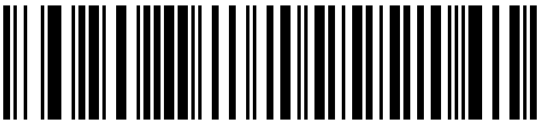


* 画像インターフェイスを備えた SNAPI



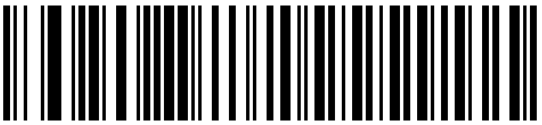
SNAPI にはグラフィカルインターフェイスがありません

HID キーボードエミュレーション

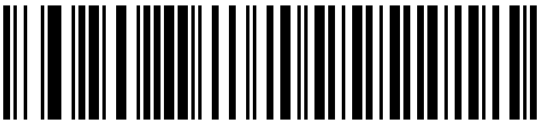


IBM デスクトップ USB

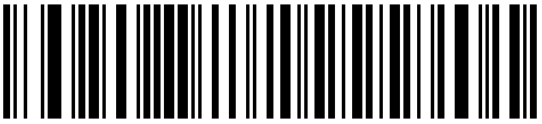
IBM ハンドヘルド USB



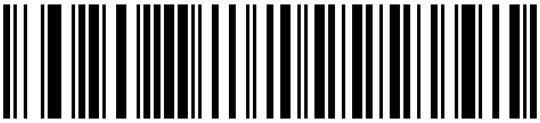
USB OPOS ハンドヘルド



シンプルな COM ポートエミュレーション



USB CDC ホスト



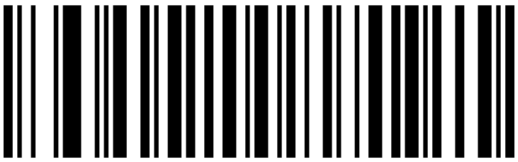
USB CDC の SSI

> **注釈**
>
> USB CDC Host を選択する前に、ホストは最初に CDC INF ファイルをインストールする必要があります。そうしないと、電源投入時の列挙中にデバイスがフリーズする可能性があります。SSI over USB CDC は SSI プロトコルのサブセットのみを提供し、ハードウェアハンドシェイク機能は含まれません。

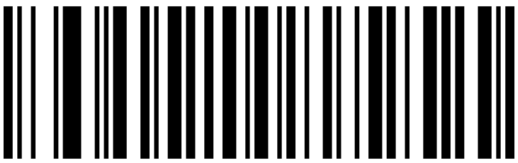
USB Static CDC

複数のデバイスが接続されている場合、COM ポート割り当て方法を制御するために使用されます。

- Enable USB Static CDC、デフォルト値
- Disable USB Static CDC



* USB 静的 CDC を有効にする



USB を無効にする静的 CDC

有効にすると、複数のデバイスが同じ COM ポートを再利用できます。無効にすると、接続された各デバイスは新しい COM ポート番号を占有します。

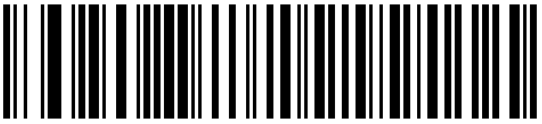
USB ポーリング間隔

ホストが USB HID 键盘モードでデバイスをポーリングする間隔を設定するために使用されます。値が小さいほど、データ転送が速くなります。

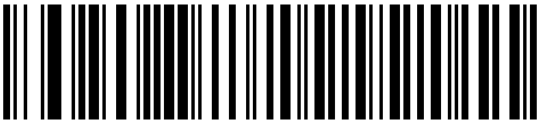
現在確認されている値は以下のとおりです。

- 1 msec
- 2 msec
- 3 msec
- 4 msec
- 5 msec

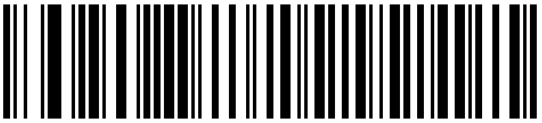
- 6 msec
- 7 msec
- 8 msec、デフォルト値
- 9 msec



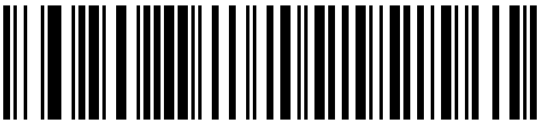
1 msec



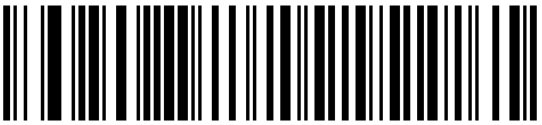
2 msec



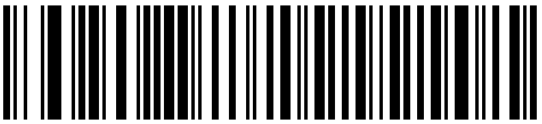
3 msec



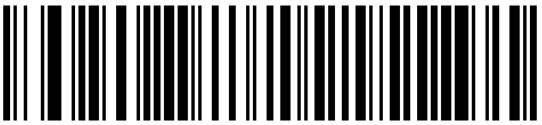
4 msec



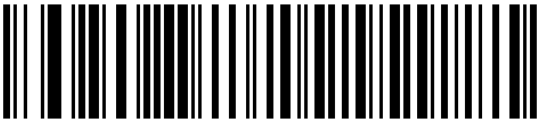
5 msec



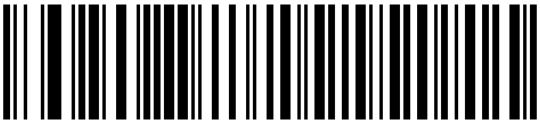
6 msec



7 msec



*8 ミリ秒



9 msec

⚠ 警告

ポーリング間隔が変更された後、デバイスは再初期化されます。ホストが速すぎるデータ速度を処理できない場合、データ損失が発生する可能性があります。

USB インターフェイスのデフォルト値

USB インターフェイスの最初のデフォルト値は次のとおりです。

パラメータ	デフォルト値
USB Device Type	SNAPI with Imaging
SNAPI Status Handshaking	Enable
USB Country Keyboard Types	North American
USB Keystroke Delay	No Delay
Simulated Caps Lock	Disable
USB CAPS Lock Override	Disable
USB Ignore Unknown Characters	Enable
USB Convert Unknown to Code 39	Disable
USB Ignore Beep Directive	Honor
USB Ignore Type Directive	Honor
Emulate Keypad	Disable
Emulate Keypad with Leading Zero	Disable
USB FN1 Substitution	Disable
Function Key Mapping	Disable
Convert Case	None
USB Static CDC	Enable
USB Polling Interval	8 msec
Quick Keypad Emulation	Disable

5.2 USB キーボード出力

USB HID Keyboard Emulation モードの基本的な動作とサポートパラメーターを説明するために使用されます。各国のキーボードレイアウト、Caps Lock の互換性、サフィックス ASCII テーブルなどの設定は、このモードでのみ有効です。

USB キーボード FN1 の交換

USB HID Keyboard Emulation にのみ適用されます。有効にすると、EAN 128 バーコード内の FN1 文字をユーザー定義のキーカテゴリと値に置き換えることができます。

- Enable
- Disable、デフォルト値

USB キーボードの置換を有効にする FN1

* USB キーボード FN1 の置換を無効にする

USB ASCII 文字セット

USB モードでのプレフィックス、サフィックス、および制御文字のエンコーディングマッピングを示すために使用されます。

確認された主なポイントは次のとおりです。

- このセクションは Table 8-2 USB Prefix/Suffix Values に対応します
- マッピングは 1000 から 1126 をカバーします
- この表には、Full ASCII、Code 39 Encode Character、および Keystroke も示されています。
- Function Key Mapping が有効な場合、表内の太字のキーが標準のマッピングを置き換えます。

USB 不明な文字が Code 39 に変換されました

IBM hand-held、IBM tabletop、および OPOS デバイスにのみ適用されます。

- Disable Convert Unknown to Code 39、デフォルト値
- Enable Convert Unknown to Code 39

* 未知の文字変換を無効にする Code 39

未知の文字変換を有効にする Code 39

未知のバーコードタイプデータが見つかったときに、それを Code 39 出力に変換するかどうかを制御するために使用されます。

USB 不明な文字を無視します

HID Keyboard Emulation および IBM デバイスに適用されます。

- Send Bar Codes with Unknown Characters (Transmit)、デフォルト値
- Do Not Send Bar Codes with Unknown Characters (Disable)

* 不明な文字を含むデータを送信する

不明な文字を含むデータを送信しないでください

送信が有効になっている場合、デバイスは不明な文字を無視しますが、他のデータは送信し続けます。無効にすると、IBM デバイスはバーコード全体の送信を防止し、HID Keyboard デバイスは不明な文字まで送信してエラートーンを発行します。

USB ブザーコマンドを無視します

IBM hand-held、IBM tabletop、および OPOS デバイスにのみ適用されます。

- Honor USB Beep Directive、デフォルト値
- Ignore USB Beep Directive

* USB ビープ音コマンドに従います

USB ブザーコマンドを無視する

USB エンコード命令を無視します

IBM hand-held、IBM tabletop、および OPOS デバイスにのみ適用されます。

- Honor USB Ignore Type Directive、デフォルト値
- Ignore USB Ignore Type Directive

* USB エンコード手順に従ってください。

USB エンコードコマンドを無視します。

5.3 キーボードのレイアウトと文字セット

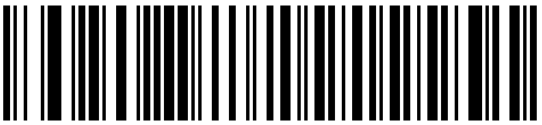
各国語のキーボードレイアウトと設定コード

別の国/地域の USB キーボードレイアウトを選択するために使用されます。USB HID Keyboard Emulation でのみ使用できます。各国のキーボードレイアウトを切り替えた後、デバイスは自動的にリセットされ、標準の電源投入時のビープ音が鳴ります。

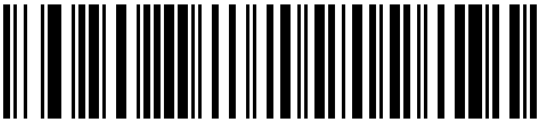
現在整理されている一般的に使用されるレイアウトは次のとおりです。

- North American Standard USB Keyboard、デフォルト値
- German Windows
- French Windows
- French Canadian Windows 95/98
- French Canadian Windows 2000/XP
- French Belgian Windows
- Spanish Windows
- Italian Windows
- Swedish Windows
- UK English Windows
- Japanese Windows (ASCII)
- Portuguese-Brazilian Windows

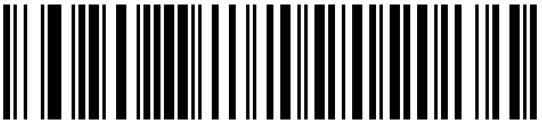
キーボードのレイアウト	セットアップコード
* 北米標準 USB キーボード	SXUAH20100
German Windows	SXUAH2010A
French Windows	SXUAH20109
French Canadian Windows 95/98	SXUAH2010B
French Canadian Windows 2000/XP	SXUAH20111
French Belgian Windows	SXUAH20108
Spanish Windows	SXUAH2010C
Italian Windows	SXUAH2010D
Swedish Windows	SXUAH2010E
UK English Windows	SXUAH2010F
Japanese Windows (ASCII)	SXUAH20110
Portuguese-Brazilian Windows	SXUAH20112



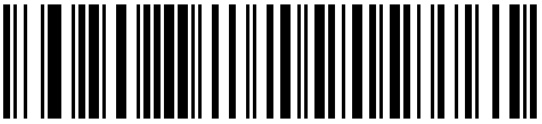
* 北米標準 USB キーボード



German Windows

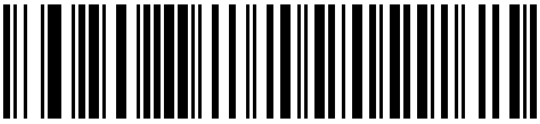


French Windows

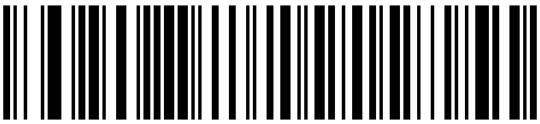


French Canadian Windows 95/98

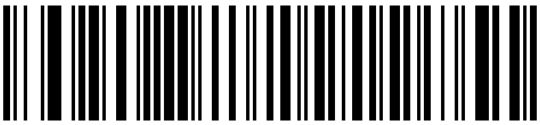
French Canadian Windows 2000/XP



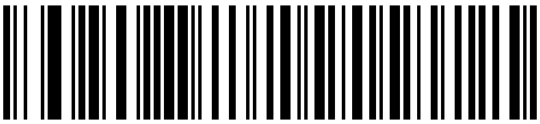
French Belgian Windows



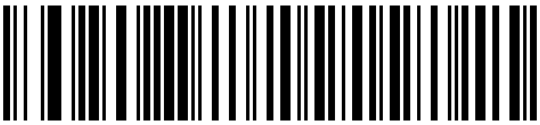
Spanish Windows



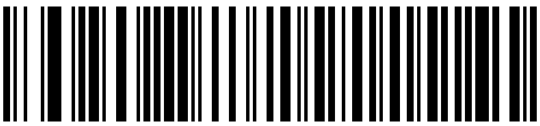
Italian Windows



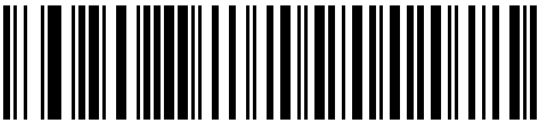
Swedish Windows



UK English Windows



Japanese Windows (ASCII)



Portuguese-Brazilian Windows

ASCII 文字セット

USB キーボードを出力するときに、ASCII マッピングテーブルを記述するために使用されます。このセクションは Table 8-2 USB Prefix/Suffix Values に対応し、プレフィックス、サフィックス、制御文字の設定に使用できます。

5.4 キーボードの動作

ファンクションキーのマッピング

ASCII < 32 の値が、標準の制御キーシーケンスではなくファンクションキーマッピングテーブルに従って送信されるかどうかを制御するために使用されます。

- Disable Function Key Mapping、デフォルト値
- Enable Function Key Mapping

* ファンクションキーマッピングを無効にする

ファンクションキーマッピングを有効にする

キーパッドをシミュレートする

テンキーの ASCII シーケンスを通じて文字を送信するために使用されます。

- Disable Keypad Emulation、デフォルト値
- Enable Keypad Emulation

* キーパッドエミュレーションを無効にする

キーパッドエミュレーションを有効にする

先行ゼロを使用したテンキーのエミュレーション

小型キーボードからの出力をシミュレートするときに先頭のゼロを追加し、ISO 文字モードで送信するために使用されます。

- Disable Keypad Emulation with Leading Zero、デフォルト値
- Enable Keypad Emulation with Leading Zero

* 先行ゼロのキーパッドエミュレーションを無効にする

先行ゼロのキーパッドエミュレーションを有効にする

クイックキーパッドエミュレーション

キーパッドエミュレーションを高速化するために、Emulate Keypad が有効になっている場合にのみ有効になります。

- Enable
- Disable、デフォルト値

出力時のホスト Caps Lock ステータスに関連する互換動作には、主に Simulated Caps Lock と USB CAPS Lock Override の 2 種類の設定が含まれます。

CAPS LOCK をシミュレートする

バーコードの大文字と小文字を反転して出力する場合に使用します。この効果は、キーボードがオンになっている Caps Lock と同等であり、ホストの現在の Caps Lock 状態とは何の関係もありません。

- Disable Simulated Caps Lock、デフォルト値
- Enable Simulated Caps Lock

* エミュレーション CAPS LOCK を無効にする

シミュレートされた CAPS LOCK を有効にする

USB CAPS LOCK の適用範囲

HID Keyboard Emulation にのみ適用されます。有効にすると、ホストの Caps Lock ステータスを無視して、バーコードを元の大文字と小文字で出力できます。

- Override Caps Lock Key (Enable)
- Do Not Override Caps Lock Key (Disable)、デフォルト値

Caps Lock ステータスをオーバーライドする

* Caps Lock ステータスは上書きされません

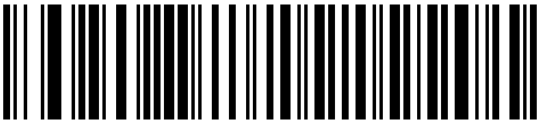
注釈

Simulated Caps Lock と Caps Lock Override が同時に有効になっている場合は、後者が優先されます。Japanese Windows (ASCII) キーボードタイプでは、この項目は常に有効になり、オフにすることはできません。

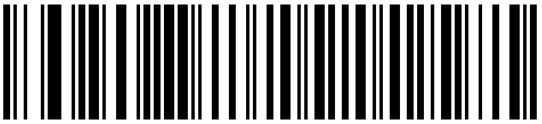
キーの遅延

キーボード出力をシミュレートするときに、各キーを押す間の時間間隔を設定するために使用されます。

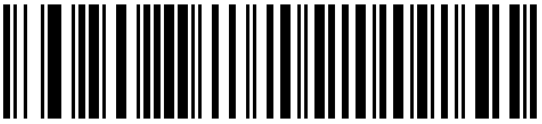
- No Delay、デフォルト値
- Medium Delay (20 msec)
- Long Delay (40 msec)



* 遅延なし



中遅延 (20 ミリ秒)



長い遅延 (40 ミリ秒)

SNAPI ステータスハンドシェイク

USB デバイスタイプが SNAPI として選択された後、ステータスハンドシェイクを有効にするかどうかを制御するために使用されます。

- Enable SNAPI Status Handshaking、デフォルト値

- Disable SNAPI Status Handshaking

* SNAPI ステータスハンドシェイクを有効にする

SNAPI ステータスハンドシェイクを無効にする

大文字と小文字の変換

バーコードの出力ケースを均一に調整するために使用します。

- No Case Conversion、デフォルト値
- Convert All to Upper Case
- Convert All to Lower Case

* 大文字と小文字を変換しません

すべて大文字に変換する

すべてを小文字に変換する

6 シリアルと SSI の設定

6.1 SSI ホストパラメータ

SSI ホストの選択

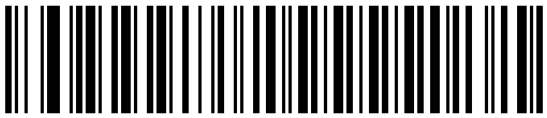
デバイスのホストインターフェイスを SSI Host に切り替えるために使用されます。デフォルトの表には、このインターフェイスの推奨初期値も示されています。

- ボーレート: 9600
- チェックデジット: None
- 検証チェック: Disable

- ストップビット: 1
- ソフトウェアハンドシェイク: ACK/NAK
- ホスト RTS 回線ステータス: Low
- デコードされたパケット形式: Send Raw Decode Data
- ホストシリアルポート応答タイムアウト: 2 sec
- ホスト文字のタイムアウト: 200 ms
- マルチパッケージオプション: Option 1
- プライベートルームの遅延: 0 ms
- デコードイベント: Disable
- 開始イベント: Disable
- パラメータイベント: Disable

注釈

SSI は、プレフィックスとサフィックスの値を他のインターフェイスとは異なる方法で解釈します。主要なカテゴリは認識せず、3 桁の 10 進数値のみを認識します。たとえば、デフォルト値 7013 は CR として解釈されます。



SSI ホストの選択

ホスト RTS 回線ステータス

シリアルポートホスト RTS ラインのアイドル状態を設定するために使用されます。

- ホスト RTS 低レベル、デフォルト値
- ホスト RTS 高レベル

* ホスト RTS 低レベル

ホスト RTS 高レベル

注釈

デバイスが「コードを読み取って送信」モードで通常のシリアルポートソフトウェアで使用されており、ホスト側のハードウェアハンドシェイクラインが SSI プロトコルと干渉する場合は、「ホスト RTS ハイレベル」への切り替えを試みることができます。

ホストのシリアルポート応答タイムアウト

デバイスがホスト ACK / NAK を待機する最大時間を設定するために使用されます。タイムアウトになると、デバイスは失敗が続いた後、再送信して送信エラーを報告します。

- Low - 2 Seconds、デフォルト値
- Medium - 5 Seconds
- High - 7.5 Seconds
- Maximum - 9.9 Seconds

*2 秒

5 秒

7.5 秒

9.9 秒

他の値は、SSI コマンドを通じて設定できます。ホストとデバイスの両端が一貫していることをお勧めします。

ホストキャラクターのタイムアウト

ホストによって送信される文字間の最大許容間隔を設定するために使用されます。この時間を超えると、デバイスは現在受信したデータを破棄し、通信エラーと判断します。

- Low - 200 ms、デフォルト値

- Medium - 500 ms
- High - 750 ms
- Maximum - 990 ms

* 200 ミリ秒

500 ms

750 ms

990 ms

他の値は、SSI コマンドを通じて設定できます。

ソフトウェアハンドシェイク

ACK/NAK ソフトウェアハンドシェイクを制御するために使用されます。

- Disable ACK/NAK
- Enable ACK/NAK、デフォルト値

ACK/NAK を無効にする

* ACK/NAK を有効にする

有効にすると、デバイスはパッケージ化されたデータを送信した後、ホストが ACK または NAK を返すのを待ちます。「ホストシリアルポート応答タイムアウト」以内に応答が受信されない場合、デバイスは最大 2 回再送信します。

注釈

ハードウェアハンドシェイクは常に有効になっており、オフにすることはできません。ACK/NAK は、生の ASCII として送信する場合、デコードされたデータには適用されません。

パラメータイベント

パラメータ関連のイベントを報告するかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Parameter Event
- Disable Parameter Event、デフォルト値

パラメータイベントを有効にする

* パラメータイベントを無効にする

典型的なイベントコードには次のものがあります。

- 0x07: パラメータ入力エラー
- 0x08: パラメータが保存されました
- 0x0A: デフォルト値を復元します
- 0x0F: 数値を入力する必要があります

イベント開始

デバイスの電源がオンになった後、デバイスが起動イベントをホストにアクティブに送信するかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Boot Up Event
- Disable Boot Up Event、デフォルト値

起動イベントを有効にする

* 起動イベントを無効にする

対応するイベントコード: 0x03

デコードイベント

デコードが成功した後にイベントをホストにアクティブに送信するかどうかを制御するために使用されます。

- Enable Decode Event
- Disable Decode Event、デフォルト値

デコードイベントを有効にする

* デコードイベントを無効にする

対応するイベントコード: 0x01

マルチパッケージオプション

マルチパケット送信時の ACK/NAK の処理方法を制御するために使用されます。

- Multipacket Option 1、デフォルト値各パケットの ACK/NAK ハンドシェイク
- Multipacket Option 2 は、リズムを制御するために ACK/NAK を使用せずにデータパケットを継続的に送信します。ホストがそれを処理できない場合は、ハードウェアハンドシェイクを使用して送信を一時的に遅らせることができます。
- Multipacket Option 3 Option 2 と同じですが、プログラム可能なパッケージ間遅延が追加されます。

* マルチパケットオプション 1

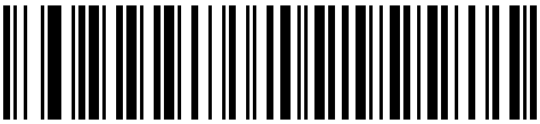
Multipacket Option 2

Multipacket Option 3

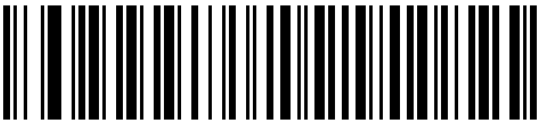
個室の遅延

Multipacket Option 3 でパッケージ間の待機時間を設定するために使用されます。

- Minimum - 0 ms、デフォルト値
- Low - 25 ms
- Medium - 50 ms
- High - 75 ms
- Maximum - 99 ms



*0 ミリ秒



25 ms

50 ms

75 ms

99 ms

他の値は、SSI コマンドを通じて設定できます。

SSI ボーレート

SSI 通信速度を設定するために使用されます。これはホストと一致している必要があります。

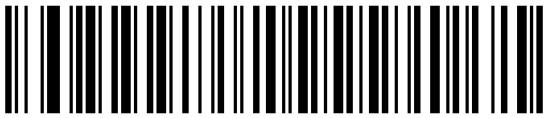
- 9600、デフォルト値
- 19,200
- 38,400
- 57,600
- 115,200
- 230,400
- 460,800
- 921,600

*9600

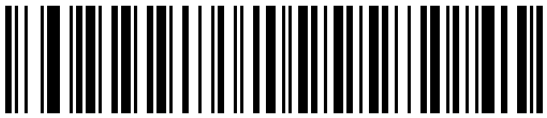
19,200

38,400

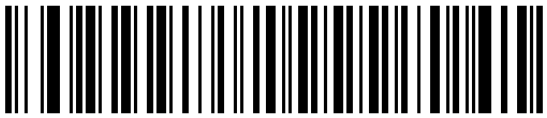
57,600



230,400



460,800



921,600

SSI チェックデジット

文字の最上位ビットを設定するために使用されるパリティチェックモード。

- Odd
- Even
- None、デフォルト値

奇数パリティ

偶数パリティ

* チェックサムなし

SSI パリティチェック

デバイスが受信した文字のパリティをチェックするかどうかを制御するために使用されます。

- Do Not Check Parity、デフォルト値
- Check Parity

*チェックデジットをチェックしません

チェックデジットを確認する

SSI ストップビット

各文字の終わりのストップビットの数を設定するために使用されます。

- 1 Stop Bit、デフォルト値
- 2 Stop Bits

*1 ストップビット

2 ストップビット

6.2 SSI トランザクションとコマンドのカプセル化

SSI トランザクション

SSI トランザクションフロー、コマンド対話シーケンス、およびホストとデバイス間の共通ステータスコードをアーカイブするために使用されます。

現在確認されている通信ルールは次のとおりです。

- SSI データは、データパケットの形式でホストとデバイス間で送信されます。1 つのパケットの最大サイズは 257 バイトです。
- デコードされたデータは、オリジナルの ASCII または DECODE_DATA パッケージとして送信できます。
- ACK/NAK が有効な場合、特に指定がない限り、パッケージ化されたすべてのメッセージは CMD_ACK または CMD_NAK を返す必要があります。
- ACK/NAK ハンドシェイクを使用せずに、WAKEUP でデータをデコードした生の ASCII
- ハードウェアハンドシェイクが使用されない場合は、スリープ状態のデバイスに通信を送信する前に WAKEUP を送信する必要があります。そうしないと、最初のバイトが失われる可能性があります。

> **注釈**
>
> すべての通信は 8 データビットを使用します。ボーレート、ストップビット、パリティビット、または応答タイムアウトが PARAM_SEND を通じて変更された場合、現在のトランザクションの ACK は引き続き古いパラメーターを使用して戻り、新しい値は次のトランザクションから有効になります。

SSI によってカプセル化された RMD コマンド/応答

SSI プロトコルでの RSM / RMD コマンドと応答のカプセル化形式を示すために使用されます。

確認された構造上のポイント:

- コマンドヘッダーは SSI_MGMT_COMMAND (0x80) を使用します
- ホスト側 Message Source は 4
- デバイス側 Message Source は 0
- 最大 255 バイトの可変長コマンドをサポート
- ホストは SSI を介した RSM コマンドの直接マルチパケット配信をサポートしていないため、RSM プロトコルに従ってホスト自体をフラグメント化する必要があります。

ページ内の例は、カプセル化された RSM コマンドを使用して診断情報 (属性 #10061) を読み取る方法を示しています。

SSI コマンドリスト

サポートされていることが確認されている代表的なコマンドは次のとおりです。

- AIM_OFF (0xC4)
- AIM_ON (0xC5)
- BEEP (0xE6)
- CAPABILITIES_REQUEST (0xD3)
- CAPABILITIES_REPLY (0xD4)
- CMD_ACK (0xD0)
- CMD_NAK (0xD1)
- DECODE_DATA (0xF3)
- EVENT (0xF6)
- LED_OFF (0xE8)
- LED_ON (0xE7)
- PARAM_DEFAULTS (0xC8)
- PARAM_REQUEST (0xC7)
- PARAM_SEND (0xC6)
- REQUEST_ID (0xA3)
- REPLY_ID (0xA6)

- REQUEST_REVISION (0xA3)
- REPLY_REVISION (0xA4)
- SCAN_DISABLE (0xEA)
- SCAN_ENABLE (0xE9)
- SLEEP (0xEB)
- START_DECODE (0xE4)
- STOP_DECODE (0xE5)
- WAKEUP

イベントコード表

整理された基本的なイベントコードは次のとおりです。

イベントの種類	意味	イベントコード
Decode Event	ノンパラメトリックデコードイベント	0x01
Boot Up Event	システム電源オン	0x03
Parameter Event	パラメータ入力エラー	0x07
Parameter Event	パラメータの保存	0x08
Parameter Event	デフォルトに戻す	0x0A
Parameter Event	数字を入力する必要があります	0x0F

送信バッファオーバーフロー

送信バッファがオーバーフローした場合のパフォーマンス、リスク、および推奨対処方法を説明するために使用されます。

6.3 RS232 ホストタイプ

RS232C ホストタイプ

さまざまな RS232 ホストタイプとそのデフォルトパラメータセットをリストするために使用されます。

現在ソートされているホストタイプは次のとおりです。

- Standard RS-232
- ICL Serial
- Wincor-Nixdorf Serial Mode A
- Wincor-Nixdorf Serial Mode B
- Olivetti ORS4500
- Omron
- OPOS/JPOS
- Fujitsu Serial
- CUTE

> **注釈**
>
> Standard RS-232 をスキャンすると、シリアルポートドライバーのみが有効になり、既存のポート設定は変更されません。他のホストタイプをスキャンすると、対応するシリアルポートパラメータも書き換えられます。

標準 RS232C

標準 RS232 ホストモードのデフォルトの通信パラメータを記述するために使用されます。現在確認されているデフォルト値は以下の通りです。

パラメータ	デフォルト値
Serial Host Types	Standard RS-232
Baud Rate	9600
Parity Type	None
Stop Bits	1
Data Bits	8-Bit
Check Receive Errors	Enable
Hardware Handshaking	None
Software Handshaking	None
Host Serial Response Time-out	2 Sec
RTS Line State	Low RTS
<BEL> でビープ音を鳴らす	Disable
Intercharacter Delay	0 msec
Nixdorf Beep/LED Options	Normal Operation
Ignore Unknown Characters	Send Bar Code

> **注釈**
>
> 元のディレクトリ内の Terminal Specific RS232 および ICL RS232C は、特定の端末またはホストプロトコルの互換性命令に属します。使用する前に、現在のホストインターフェイスのタイプとプロトコル要件を確認する必要があります。

6.4 シリアル通信パラメータ

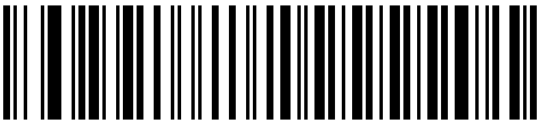
RS232 ボーレート

シリアルポートの通信速度の選択を説明するために使用されます。

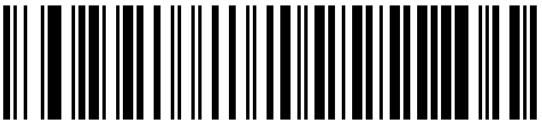
現在確認されている値は以下のとおりです。

- 9600、デフォルト値
- 19,200
- 38,400
- 57,600
- 115,200
- 230,400

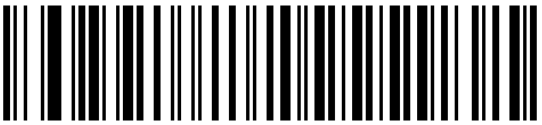
- 460,800
- 921,600



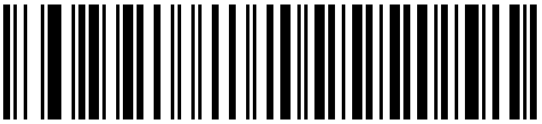
* RS232 ボーレート 9600



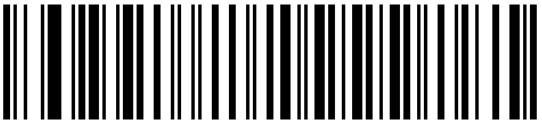
RS232 ボーレート 19,200



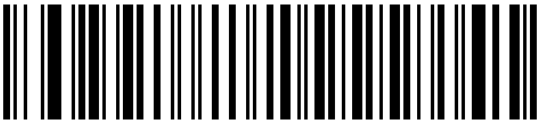
RS232 ボーレート 38,400



RS232 ボーレート 57,600



RS232 ボーレート 115,200



RS232 ボーレート 230,400

RS232 ボーレート 460,800

RS232 ボーレート 921,600

RS232 チェックディジット

パリティチェック戦略の選択方法を説明するために使用されます。

- Odd
- Even
- None、デフォルト値

RS232 奇数パリティ

RS232 偶数パリティ

* RS232 チェックなし

Check Parity は、受信側でパリティチェックを実行するかどうかを制御するために使用され、通常は上記の RS232 校验位で確認されます。

RS232 ストップビット

ストップビット数の選択方法を説明するために使用されます。

- 1 Stop Bit、デフォルト値
- 2 Stop Bits

* RS232 1 ストップビット

RS232 2 ストップビット

8 データビット

シリアルポートのデータビット幅構成を説明するために使用されます。

- 7-Bit
- 8-Bit、デフォルト値

RS232 7 データビット

* RS232 8 ビットデータビット

注釈

原文の Even Parity、DO NOT CHECK PARITY、HOST HIGH RTS、および Host Low RTS はシリアルポート互換性命令です。パリティチェックのスキャン可能な設定コードは「RS232 チェックビット」に統合されており、RTS ラインステータスは「ハードウェアハンドシェイク」およびホストプロトコル要件と組み合わせて確認する必要があります。

受信エラーチェック

受信した文字のパリティ、フレーミングエラー、およびオーバーフローエラーをチェックするかどうかを制御するために使用されます。

- Check For Received Errors、デフォルト値
- Do Not Check For Received Errors

* 受信エラーをチェックする

受信エラーをチェックしない

ハードウェアハンドシェイク

シリアルポート RTS/CTS ハードウェアハンドシェイクを制御するために使用されます。

現在確認されているオプションと動作は次のとおりです。

- None
- Standard RTS/CTS
- RTS/CTS Option 1
- RTS/CTS Option 2
- RTS/CTS Option 3

注釈

ハードウェアハンドシェイクとソフトウェアハンドシェイクが同時に有効になっている場合は、ハードウェアハンドシェイクが優先されます。Standard RTS/CTS モードでは、デバイスは CTS と「ホストシリアルポートの応答タイムアウト」に依存して送信タイミングを制御します。ハンドシェイクが失敗すると、現在のデータが失われ、送信エラープロンプトが表示されます。

6.5 その他のシリアルポート関連

元のディレクトリ	説明する
Fuzzy Processing	ファジーマッチング、フォールトトレラント受信、または互換性処理に関連する特別なシリアルポートパラメータを編成するために使用されます。
Codabar Upper or Lower Case Start Stop Characters Detection	Codabar の開始文字と終了文字の場合のシリアルポートまたはホスト側の検出互換性戦略を記述するために使用されます。

7 バーコード設定

7.1 一般的な指示

- ほとんどのバーコードパラメータは、設定コードをスキャンすることで有効になります。
- 長さ、冗長性、タイムアウトなどの数値パラメータは、通常、最初にエントリ設定コードをスキャンしてから、数字设置码 をスキャンする必要があります。
- 入力プロセス中にエラーが発生した場合は、Cancel をスキャンして、現在の入力シーケンスをキャンセルします。

7.2 すべてのエンコーディングを無効にする

すべてのエンコーディングが無効になっています

すべてのエンコーディングを無効にする

7.3 UPC/EAN

UPC-A スイッチ

* UPC-A を有効にする

UPC-A を無効にする

UPC-E スイッチ

* UPC-E を有効にする

UPC-E を無効にする

UPC-E1 スイッチ

UPC-E1 を有効にする

* UPC-E1 を無効にする

EAN-8/JAN-8 スイッチ

* EAN-8/JAN-8 を有効にする

EAN-8/JAN-8 を無効にする

EAN-13/JAN-13 スイッチ

* EAN-13/JAN-13 を有効にする

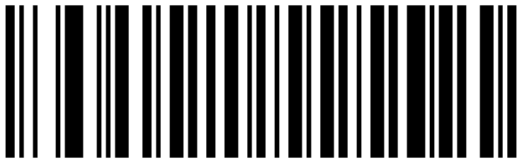
EAN-13/JAN-13 を無効にする

ブックランド EAN スイッチ

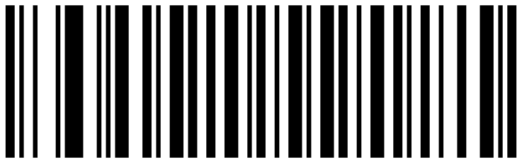
* Bookland EAN を有効にする

Bookland EAN を無効にする

ブックランドの ISBN 形式



* ブックランド ISBN-10



Bookland ISBN-13

UPC/EAN/JAN 追加コード読み取りモード

追加コードを含む UPC/EAN/JAN のみを読み取ります

* 追加のコードを無視します

UPC/EAN/JAN アドオンコードを自動的に決定

378/379 アドオンコードモードを有効にする

978/979 アドオンコードモードを有効にする

977 アドオンコードモードを有効にする

414/419/434/439 アドオンコードモードを有効にする

491 追加モードを有効にする

スマート追加モードを有効にする

カスタムアドオンコードパターン

アドオンコードユーザープログラマブルタイプ 1

ユーザーがプログラム可能なアドオンコードタイプ 1 および 2

スマートなアドオンコード + ユーザーがプログラム可能 1

スマートなアドオンコード + ユーザーがプログラム可能な 1 および 2

カスタム拡張コードの種類

ユーザーがプログラム可能なアドオンコード 1

ユーザーがプログラム可能なアドオンコード 2

追加のコード冗長性

UPC/EAN/JAN アドオンコードの冗長化

追加コード伝送フォーマット

分離

* 組み合わせ

別送

UPC-A チェックディジットの送信

*UPC-A チェックディジットを送信します

UPC-A チェックディジットを送信しない

UPC-E チェックディジットの送信

*UPC-E チェックディジットを送信します

UPC-E チェックディジットを送信しない

UPC-E1 チェックディジットの送信

*UPC-E1 チェックディジットを送信します

UPC-E1 チェックディジットを送信しない

UPC-A プリアンブル

プリアンブルなし ()

* システム文字 ( )

システム文字と国コード (< COUNTRY CODE>)

UPC-E プリアンブル

プリアンブルなし ()

* システム文字 ( )

システム文字と国コード (< COUNTRY CODE>)

UPC-E1 プリアンブル

プリアンブルなし ()

* システム文字 ( )

システム文字と国コード (< COUNTRY CODE>)

UPC-E が UPC-A に変換されました

UPC-E が UPC-A に変換されました (有効)

* UPC-E を UPC-A に変換しません (無効)

UPC-E1 を UPC-A に変換

UPC-E1 を UPC-A に変換 (有効)

* UPC-E1 を UPC-A に変換しません (無効)

EAN/JAN ゼロ拡張

EAN/JAN ゼロ拡張を有効にする

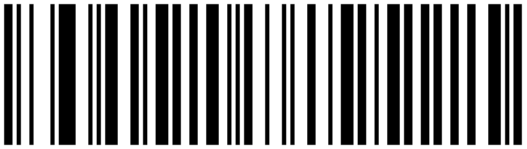
* EAN/JAN ゼロ拡張を無効にする

UCC クーポン延長コード

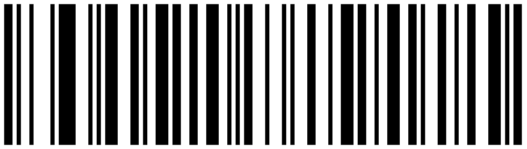
UCC クーポン拡張コードを有効にする

* UCC クーポン拡張コードを無効にする

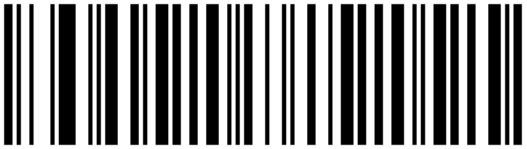
クーポンコードの形式



旧バージョンのクーポンコード

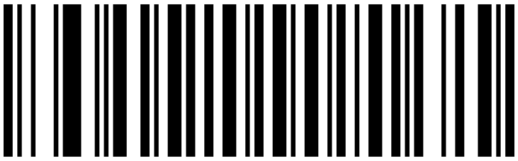


* 新しいバージョンのクーポンコード

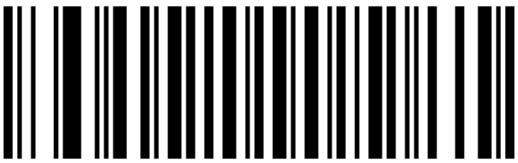


2 つのクーポン形式

ISSN EAN スイッチ



ISSN EAN を有効にする



* ISSN EAN を無効にする

7.4 Code 128

Code 128 スイッチ

* Code 128 を有効にする

Code 128 を無効にする

Code 128 長さの設定

Code 128 - 単一の固定長

Code 128 - 2 つの固定長

Code 128 - 長さの範囲

* Code 128 - 任意の長さ

GS1-128 スイッチ

* GS1-128 を有効にする

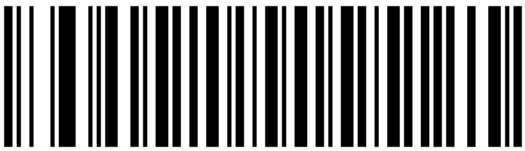
GS1-128 を無効にする

ISBT128 スイッチ

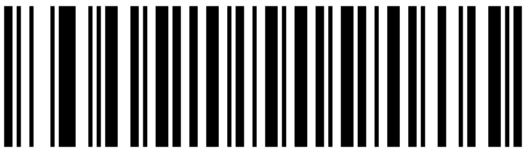
* ISBT 128 を有効にする

ISBT 128 を無効にする

ISBT 接続モード



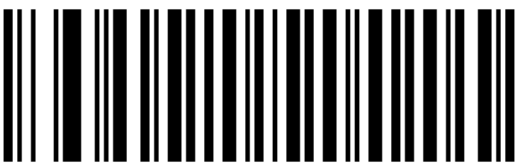
* ISBT 接続を無効にする



ISBT 接続を有効にする

ISBT 接続を自動的に識別する

ISBT テーブルの検証



* ISBT テーブル検証を有効にする

ISBT テーブル検証を無効にする

ISBT 接続の冗長化

ISBT 接続の冗長化

7.5 Code 39

Code 39 スイッチ

* Code 39 を有効にする

Code 39 を無効にする

トライオプティック Code 39 スイッチ

Trioptic Code 39 を有効にする

* Trioptic Code 39 を無効にする

Code 39 からコード 32

Code 39 をコード 32 に有効にする

* コード 32 に対する Code 39 を無効にする

コード 32 プレフィックス

Code 32 プレフィックスを有効にする

* Code 32 プレフィックスを無効にする

Code 39 長さの設定

Code 39 - 単一の固定長

Code 39 - 2 つの固定長

* Code 39 - 長さの範囲

Code 39 - 任意の長さ

Code 39 チェックディジット

Code 39 チェックディジットを有効にする

* Code 39 チェックディジットを無効にする

Code 39 チェックディジットの送信

Code 39 チェックディジットの送信 (有効)

* Code 39 チェックディジットを送信しない (無効)

Code 39 Full ASCII

Code 39 Full ASCII を有効にする

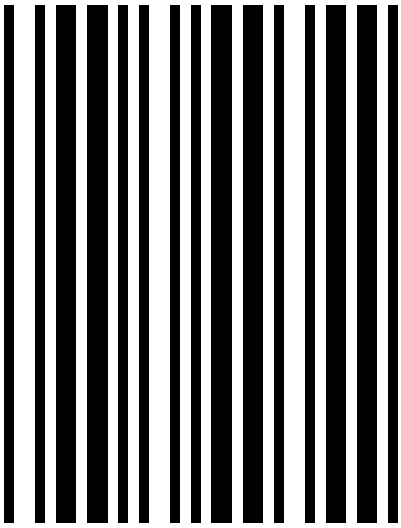
* Code 39 Full ASCII を無効にする

Code 39 バッファーモード

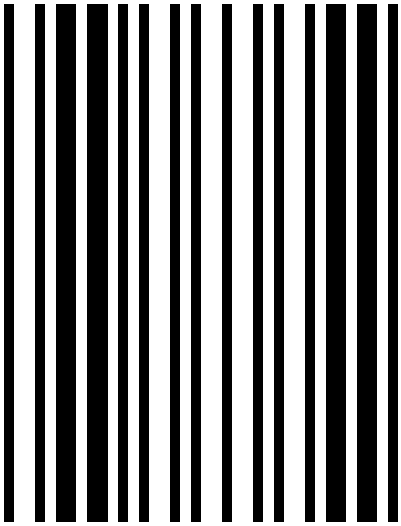
バッファ Code 39 (有効)

* Code 39 をバッファしない (無効)

Code 39 バッファ制御



バッファをクリアする



送信バッファ

7.6 Code 93

コード 93 スイッチ

コード 93 を有効にする

* コード 93 を無効にする

Code 93 の長さの設定

コード 93 - 単一の固定長

コード 93 - 2 つの固定長

* コード 93 - 長さの範囲

コード 93 - 任意の長さ

7.7 Code 11

コード 11 スイッチ

コード 11 を有効にする

* コード 11 を無効にする

コード 11 の長さ設定

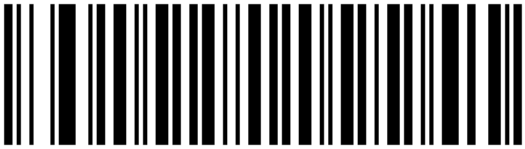
コード 11 - 単一の固定長

コード 11 - 2 つの固定長

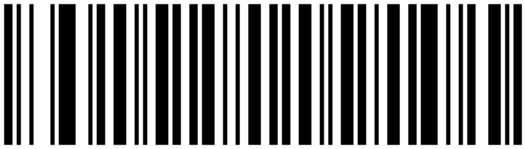
* コード 11 - 長さの範囲

コード 11 - 任意の長さ

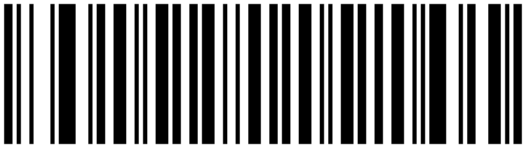
コード 11 チェックディジット番号



* 無効にする



チェックデジット



2 つのチェックデジット

Code 11 チェックディジットの送信

コード 11 チェックディジットの送信 (有効)

* Code 11 チェックディジットを送信しない (無効)

7.8 Interleaved 2 of 5 (ITF)

インターリーブド 2 of 5 スイッチ

Interleaved 2 of 5 を有効にする

* Interleaved 2 of 5 を無効にする

Interleaved 2 of 5 の長さ設定

* I 2 of 5 - 単一の固定長

I 2 of 5 - 2 つの固定長

I 2 of 5 - 長さの範囲

I 2/5 - 任意の長さ

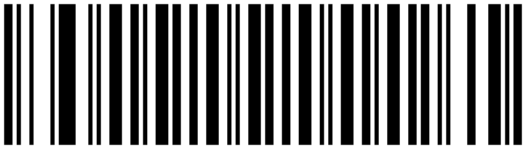
Interleaved 2 of 5 検証方法

* 無効にする

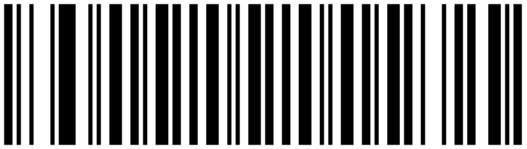
USS チェックディジット

OPCC チェックデジット

インターリーブ 2 of 5 チェックデジット送信



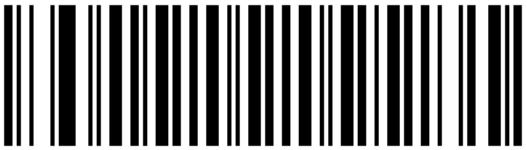
I 2 of 5 パリティ桁の送信 (有効)



* I 2 of 5 チェックディジットを送信しない (無効)

インターリーブド 2 of 5 から EAN-13

I 2 of 5 は EAN-13 に変換されます (有効)



* I 2 of 5 を EAN-13 に変換しません (無効)

7.9 Discrete 2 of 5 (DTF)

ディスクリート 2 of 5 スイッチ

Discrete 2 of 5 を有効にする

* Discrete 2 of 5 を無効にする

ディスクリート 2 of 5 の長さ設定

* D 2 of 5 - 単一の固定長

D 2/5 - 2 つの固定長

D 2/5 - 長さの範囲

D 2/5 - 任意の長さ

7.10 Codabar (NW-7)

コーダバースイッチ

Codabar を有効にする

* Codabar を無効にする

コーダバーの長さの設定

Codabar - 単一の固定長

Codabar - 2 つの固定長

* Codabar - 長さの範囲

Codabar - 任意の長さ

CLSI 編集者

CLSI 編集を有効にする

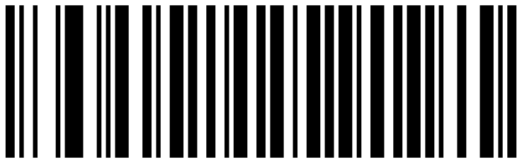
* CLSI 編集を無効にする

通知編集

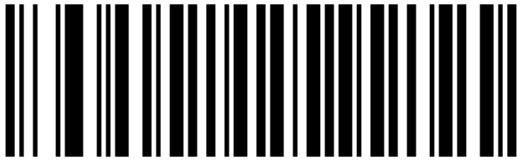
NOTIS 編集を有効にする

* NOTIS 編集を無効にする

開始文字/終了文字の大文字と小文字



小文字



* 大文字

7.11 MSI

MSI スイッチ

MSI を有効にする

* MSI を無効にする

MSI の長さの設定

MSI - 単一の固定長

MSI - 2 つの固定長

* MSI - 長さの範囲

MSI - 任意の長さ

MSI チェックディジット番号

* MSI チェックディジット

2 つの MSI チェックディジット

MSI チェックデジット送信

MSI チェックデジットの送信（有効）

* MSI チェックデジットを送信しない (無効)

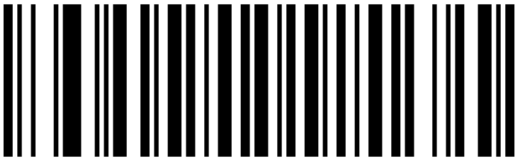
7.12 Chinese 2 of 5

中国語 2 of 5 チェックアルゴリズム

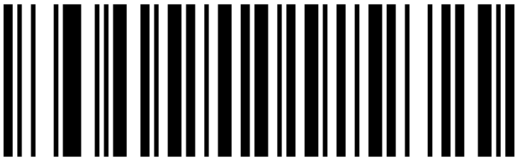
MOD 10/MOD 11

* MOD 10/MOD 10

中国の 2/5 スイッチ



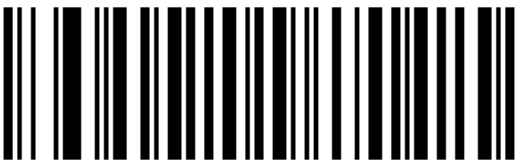
中国語 2/5 を有効にする



* 障害のある中国語 2/5

7.13 Matrix 2 of 5

マトリックス 2/5 スイッチ



マトリックス 2/5 を有効にする

* マトリックス 2/5 を無効にする

マトリックス 2/5 の長さ設定

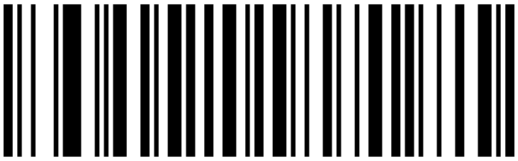
* 行列 2/5 - 単一の固定長

マトリックス 2/5 - 2 つの固定長

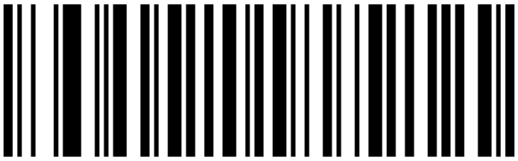
マトリックス 2/5 - 長さの範囲

マトリックス 2/5 - 任意の長さ

マトリックス 2/5 チェックデジット



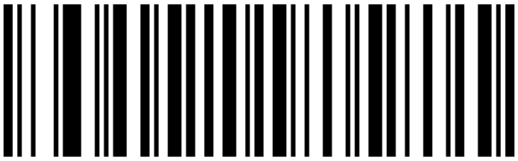
マトリックス 2/5 チェックディジットを有効にする



* 5 チェックディジットの行列 2 を無効にする

マトリックス 2/5 チェックデジットの送信

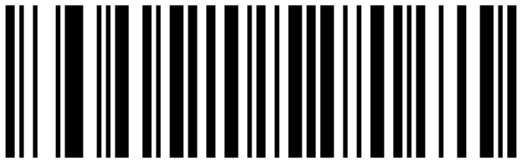
マトリックス 2/5 チェックディジットを送信



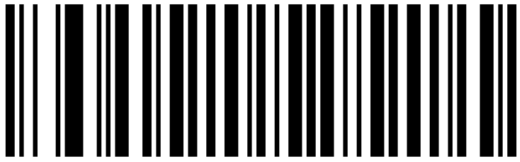
* 5 チェックディジットの行列 2 を送信しないでください

7.14 Korean 3 of 5

韓国語 3/5 スイッチ



韓国語 3/5 を有効にする



* 障害のある韓国語 3/5

7.15 反転カラー 1 次元コード

逆色読み取りモード

* 一般的な

色のみを反転

反転色の自動検出

7.16 郵便番号

米国ポストネットスイッチ

米国ポストネットを有効にする

* US Postnet を無効にする

US プラネットスイッチ

US プラネットを有効にする

* 米国の惑星を無効にする

米国の郵便チェックディジットの送信

米国郵便のチェックデジットが送信されない

英国郵便スイッチ

英国郵便を有効にする

* 英国郵便を無効にする

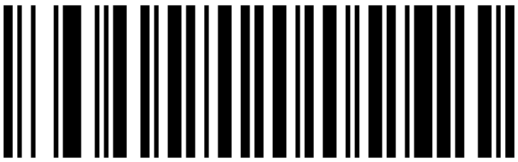
英国の郵便チェックディジットの送信

* 英国郵便チェックディジットを送信する

英国郵便のチェックデジットを送信しないでください

日本郵便スイッチ

日本郵便を有効にする



* 日本郵便を無効にする

オーストラリア郵便局のスイッチ

オーストラリア郵便を有効にする

* オーストラリア郵便を無効にする

オーストラリアの郵便フォーマット

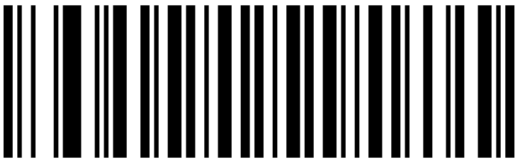
* 自動識別

オリジナルフォーマット

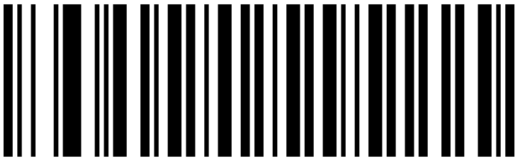
英数字エンコーディング

デジタルエンコーディング

オランダ KIX コードスイッチ

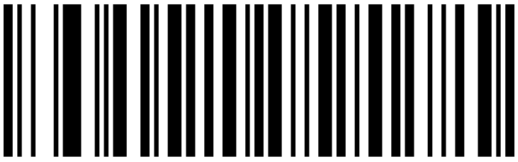


オランダの KIX コードを有効にする

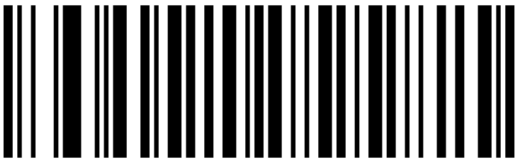


* オランダの KIX コードを無効にする

USPS 4CB/ワンコード/インテリジェントメールスイッチ



USPS 4CB/ワンコード/インテリジェントメールを有効にする



* USPS 4CB/ワンコード/インテリジェントメールを無効にする

UPU FICS 郵便交換局

UPU FICS 郵便を有効にする

* UPU FICS 郵便を無効にする

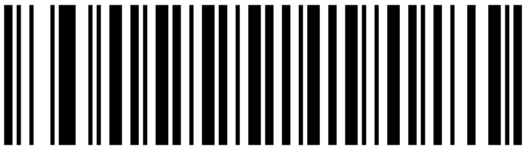
7.17 GS1 DataBar

GS1 データバースイッチ

* GS1 データバーを有効にする

GS1 データバーを無効にする

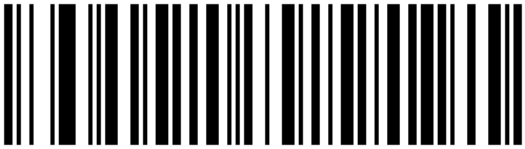
GS1 DataBar 限定スイッチ



GS1 DataBar 限定を有効にする

* GS1 DataBar Limited を無効にする

GS1 DataBar 限定セキュリティレベル



セキュリティレベル 1

セキュリティレベル 2

* セキュリティレベル 3

セキュリティレベル 4

GS1 DataBar 拡張スイッチ

* GS1 データバーの展開を有効にする

GS1 データバー展開を無効にする

GS1 データバーから UPC/EAN へ

GS1 データバーを UPC/EAN に有効にする

* UPC/EAN への GS1 データバーを無効にする

7.18 複合複合コード

CC-C スイッチ

* CC-C を無効にする

CC-A/B スイッチ

* CC-A/B を無効にする

TLC39 スイッチ

TLC39 を有効にする

* TLC39 を無効にする

複合コードのビープ音プロンプト

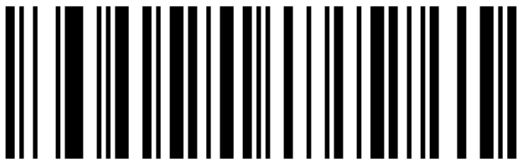
すべてのデコード後にビープ音が 1 回鳴ります

* コードシステムがデコードされるたびにブザーを 1 回鳴らします

すべてのデコード後にビープ音が 2 回鳴ります

UCC/EAN 複合コード GS1-128 シミュレーション

UCC/EAN 複合コードの GS1-128 エミュレーションモードを有効にする



* UCC/EAN 複合コードの GS1-128 エミュレーションモードを無効にします

7.19 QR コード

PDF417 スイッチ

* PDF417 を有効にする

PDF417 を無効にする

MicroPDF417 スイッチ

MicroPDF417 を有効にする

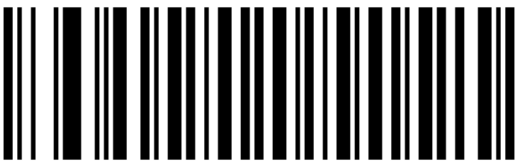
* MicroPDF417 を無効にする

MicroPDF417 Code 128 シミュレーション

Code 128 エミュレーションを有効にする

* Code 128 エミュレーションを無効にする

Data Matrix スイッチ



* Data Matrix を有効にする

Data Matrix を無効にする

Data Matrix 逆色読み取り

* 一般的な

色のみを反転

反転色の自動検出

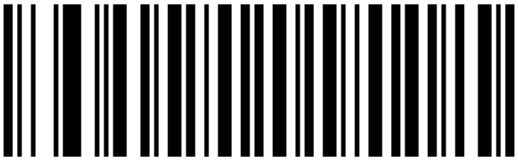
Data Matrix ミラー読み取り

一度もない

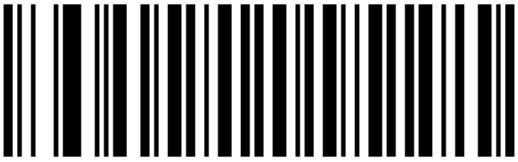
いつも

* 自動

マキシコードスイッチ



マキシコードを有効にする



* Maxicode を無効にする

QR Code スイッチ

* QR Code を有効にする

QR Code を無効にする

QR Code 逆色読み取り

* 一般的な

色のみを反転

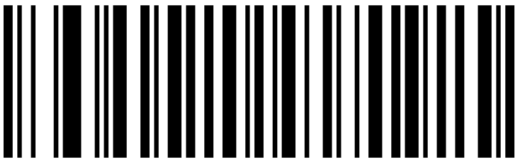
反転色の自動検出

MicroQR スイッチ

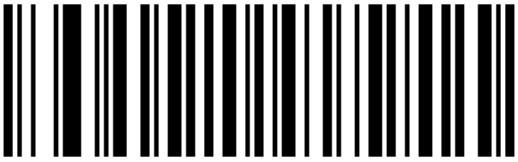
* MicroQR を有効にする

MicroQR を無効にする

アステカスイッチ



* アステカを有効にする



アステカを無効にする

アステカの逆カラー読み取り

従来の

色のみを反転

* 反転色を自動的に検出します

7.20 冗長性レベル

冗長性レベル

* 冗長性レベル 1

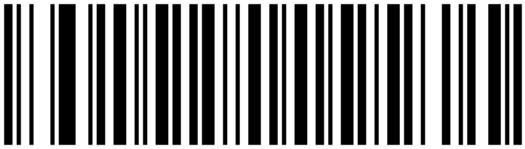
冗長性レベル 2

冗長性レベル 3

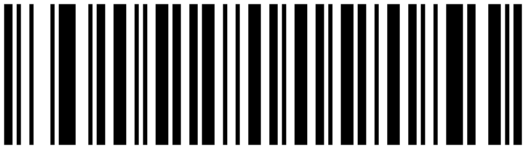
冗長性レベル 4

7.21 セキュリティレベル

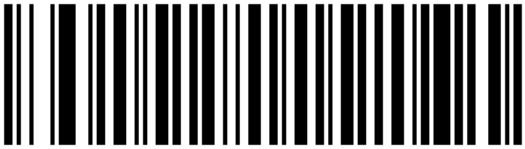
セキュリティレベル



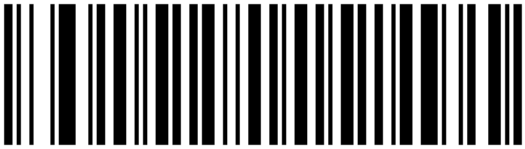
セキュリティレベル 0



* セキュリティレベル 1



セキュリティレベル 2



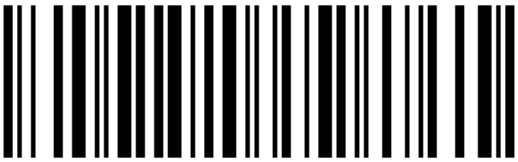
セキュリティレベル 3

7.22 文字ギャップサイズ

文字ギャップサイズ

Code 39 および Codabar コードシステムの文字ギャップ許容値を調整するために使用されます。バーコード印刷により文字ギャップが標準範囲を超える場合は、より大きな文字ギャップを選択してエラー耐性を向上させることができます。

* 通常の文字ギャップ



キャラのギャップが大きい

7.23 マクロ PDF の機能

マクロ PDF 転送/デコードモード

すべてのシンボルをバッファリング / 完了したらマクロ PDF を転送

セット内の任意のシンボルを順不同で送信します

* すべてのシンボルを透過的に送信します

マクロ PDF 制御ヘッダーとエスケープ文字

マクロ PDF コントロールヘッダー送信を有効にする

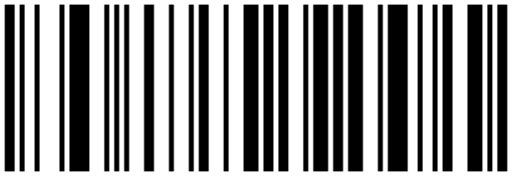
* マクロ PDF コントロールヘッダーの送信を無効にする

GLI プロトコル

* なし

マクロ PDF バッファー制御

マクロ PDF バッファーをクリア



マクロ PDF インポートを中止する

8 付録とセットアップコード

8.1 パラメータデフォルトテーブル

パラメータのデフォルト値

次の表に、各章の一般的なデフォルトパラメータを示します。

パラメータ	デフォルト値
Transmit Code ID Character	None
Scan Data Transmission Format	原样输出数据
FN1 Substitution Value	7013 (Enter)
Transmit "No Read" Message	禁用

USB インターフェイスのデフォルト値

USB インターフェイスのデフォルト値には次のものが含まれます。

パラメータ	デフォルト値
USB Device Type	SNAPI 带图像接口
SNAPI Status Handshaking	启用
USB Country Keyboard Types	North American
USB Keystroke Delay	无延时
Simulated Caps Lock	禁用
USB CAPS Lock Override	禁用
USB Ignore Unknown Characters	启用
USB Convert Unknown to Code 39	禁用
USB Ignore Beep Directive	遵循主机指令
USB Ignore Type Directive	遵循主机指令
Emulate Keypad	禁用
Emulate Keypad with Leading Zero	禁用
USB FN1 Substitution	禁用
Function Key Mapping	禁用
Convert Case	None
USB Static CDC	启用
USB Polling Interval	8 msec
Quick Keypad Emulation	禁用

デコードされていないコード読み取りデバイスのシミュレーションのデフォルトテーブル

デコードされていないコード読み取りデバイスのエミュレーションモードでデフォルトのホストパラメータをアーカイブするために使用されます。このモードは通常、特定の端末またはホストプロトコルで使用されます。変更する前に、現在のホストインターフェイスのタイプを確認する必要があります。

RS232 ホストのデフォルトテーブル

標準の RS232 のデフォルト値は次のとおりです。

パラメータ	デフォルト値
Serial Host Types	Standard RS-232
Baud Rate	9600
Parity Type	None
Stop Bits	1
Data Bits	8-Bit
Check Receive Errors	启用
Hardware Handshaking	None
Software Handshaking	None
Host Serial Response Time-out	2 Sec
RTS Line State	Low RTS
Beep on <BEL>	禁用
Intercharacter Delay	0 msec
Nixdorf Beep/LED Options	Normal Operation
Ignore Unknown Characters	发送条码

8.2 コマンドとイベントテーブル

SSI コマンドリスト

このセクションでは、SSI コマンド番号、コマンド名、パラメータ長、およびサンプルデータをリストします。

イベントコード表

このセクションには、イベント番号、イベント名、およびトリガー条件の説明がリストされます。

端末固有の Code ID 文字テーブル

この表には、各端末モードの固定 Code ID 文字がリストされています。

注釈

ホストタイプが ICL、Fujitsu、Wincor-Nixdorf、OPOS/JPOS、Olivetti、Omron、または CUTE として選択されると、デバイスはこの表の端末固有の Code ID を自動的に有効にします。これらの値はプログラム可能ではなく、Transmit Code ID 機能とは独立しているため、「Code ID 文字の送信」を追加で有効にしないでください。

モバイルデバイスでの水平方向のトリミングを避けるために、表は端末の種類ごとに分割されています。

Code Type	ICL	Fujitsu
UPC-A	AA	A
UPC-E	EE	C
EAN-8/JAN-8	FF	FF
EAN-13/JAN-13	FF	A
Bookland EAN	FF	A
Code 39	C<len>	None
Code 39 Full ASCII	None	None
Trioptic	None	None
Code 32	None	None
Codabar	N<len>	None
Code 128	L<len>	None
GS1-128	L<len>	None
Code 93	None	None
I 2 of 5	I<len>	None
D 2 of 5	H<len>	None
MSI	None	None
Code 11	None	None
IATA	H<len>	None
GS1 DataBar Variants	None	None
PDF417	None	None
MicroPDF417	None	None
Data Matrix	None	None
Maxicode	None	None
QR Codes	None	None
Aztec/Aztec Rune	None	None

Code Type	Wincor-Nixdorf Mode A	Wincor-Nixdorf Mode B / OPOS/JPOS
UPC-A	A	A
UPC-E	C	C
EAN-8/JAN-8	B	B
EAN-13/JAN-13	A	A
Bookland EAN	A	A
Code 39	M	M
Code 39 Full ASCII	M	M
Trioptic	None	None
Code 32	None	None
Codabar	N	N
Code 128	K	K
GS1-128	P	P
Code 93	L	L
I 2 of 5	I	I
D 2 of 5	H	H
MSI	O	O
Code 11	None	None
IATA	H	H
GS1 DataBar Variants	E	E
PDF417	Q	Q
MicroPDF417	S	S
Data Matrix	R	R
Maxicode	T	T
QR Codes	U	U
Aztec/Aztec Rune	V	V

Code Type	Olivetti	Omron	CUTE
UPC-A	A	A	-
UPC-E	E	None	-
EAN-8/JAN-8	B	FF	None
EAN-13/JAN-13	F	A	-
Bookland EAN	F	None	-
Code 39	M<len>	C<len>	3
Code 39 Full ASCII	None	None	3
Trioptic	None	None	None
Code 32	None	None	None
Codabar	N<len>	N<len>	None
Code 128	K<len>	L<len>	5
GS1-128	P<len>	L<len>	5
Code 93	L<len>	None	None
I 2 of 5	I<len>	I<len>	1
D 2 of 5	H<len>	H<len>	2
MSI	O<len>	None	None
Code 11	None	None	None
IATA	H<len>	H<len>	2
GS1 DataBar Variants	None	None	None
PDF417	None	None	6
MicroPDF417	None	None	6
Data Matrix	None	None	4
Maxicode	None	None	None
QR Codes	None	None	7
Aztec/Aztec Rune	None	None	8

8.3 接尾辞、接尾辞および文字値の表

プレフィックス/サフィックス値テーブル

確認された主なポイントは次のとおりです。

- Prefix/Suffix Values 4 桁で設定
- 番号 1 はボタンカテゴリです
- 最後の 3 桁は 10 進数の文字値です
- 詳細な値のテーブルは Table E-1 にあります。

いくつかの端末のデフォルトパラメータのうち、サフィックスとサフィックスの一般的なデフォルト値は次のとおりです。

- STX (1002)
- CR (1013)
- ETX (1003)

USB ASCII 文字セットテーブル

現在、このセクションは Table 8-2 USB Prefix/Suffix Values に対応し、1000 から 1126 までのサフィックス/制御文字のマッピングをカバーしており、次の用途に使用できることが確認されています。

- プレフィックスとサフィックスの設定
- FN1 置換値の選択
- USB キーボード制御文字出力

各国のキーボードタイプコード

このセクションは、USB HID 键盘レイアウト選択に対応し、一般的なキーボードレイアウトコードをリストします。完全な設定コードは、USB および PL5 モジュールマニュアルのキーボード設定によって維持されます。

キーボードのレイアウト	セットアップコード
North American Standard USB Keyboard	SXUAH20100
German Windows	SXUAH2010A
French Windows	SXUAH20109
French Canadian Windows 95/98	SXUAH2010B
French Canadian Windows 2000/XP	SXUAH20111
French Belgian Windows	SXUAH20108
Spanish Windows	SXUAH2010C
Italian Windows	SXUAH2010D
Swedish Windows	SXUAH2010E
UK English Windows	SXUAH2010F
Japanese Windows (ASCII)	SXUAH20110
Portuguese-Brazilian Windows	SXUAH20112

16 進数値テーブル

このテーブルは、16 進値、表示文字、および制御文字間の対応を照会するために使用されます。

FN1 置換値テーブル

EAN-128 の FN1 の置換値を設定するために使用されます。

確認されたルールは以下の通りです。

- デフォルト値: 7013、つまり Enter

セットアップ手順:

1. Set FN1 Substitution Value をスキャン
2. 現在のホストインターフェイスの ASCII 文字テーブルでターゲットキーの値を見つけます。
3. 対応する 4 桁の値を入力してください

ホストコマンドで設定する場合は、まず Key Category を 1 に設定し、次に 3 桁のキー値を設定します。

8.4 参考設定コード

デジタル設定コード

長さ、タイムアウト、明るさ、アドレスなどの数値パラメータを入力するために使用されます。このセクションでは、0 から 9 までのデジタル設定コードを示します。

数字の 0

ナンバー 1

番号 2

番号 3

4 番

5 番

6 番

7 番

8 番

9 番

入力をキャンセルする

値を設定するときに、現在の入力を取り消して最初からやり直すために使用します。

入力をキャンセルする